

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2018年11月28日

【事業年度】 第13期(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

【会社名】 株式会社SHIFT

【英訳名】 SHIFT Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 丹下 大

【本店の所在の場所】 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル

【電話番号】 03 (6809) 1165 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経営管理部 部長 岡 朋宏

【最寄りの連絡場所】 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル

【電話番号】 03 (6809) 1165 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経営管理部 部長 岡 朋宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2014年8月	2015年8月	2016年8月	2017年8月	2018年8月
売上高 (千円)	2,150,837	3,288,705	5,511,866	8,174,062	12,792,680
経常利益 (千円)	124,275	315,405	569,560	440,641	1,238,510
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	149,619	195,344	307,807	208,692	368,239
包括利益 (千円)	150,622	194,392	333,834	259,902	434,503
純資産 (千円)	1,056,029	1,516,231	1,828,078	2,117,752	2,506,433
総資産 (千円)	1,530,685	2,224,507	3,363,201	5,330,786	6,284,898
1株当たり純資産額 (円)	84.03	103.33	120.90	133.52	159.33
1株当たり当期純利益 (円)	11.90	13.99	21.40	14.49	25.49
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)		12.69	19.80	13.41	23.61
自己資本比率 (%)	69.0	66.9	51.7	36.1	36.7
自己資本利益率 (%)	15.3	15.4	19.1	11.4	17.4
株価収益率 (倍)		75.99	64.03	97.88	191.42
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	253,443	292,213	148,448	394,241	1,247,514
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	56,284	166,347	279,776	1,255,466	272,130
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	46,880	254,341	493,236	1,195,581	355,875
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	903,130	1,286,900	1,635,655	1,977,028	2,474,400
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕 (名)	148 〔189〕	233 〔370〕	483 〔415〕	966 〔486〕	1,271 〔534〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第9期は、新株予約権の残高がありますが、当社株式は期中を通じて非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

3. 当社株式は2014年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。第10期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の計算については、新規上場日から第10期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

4. 株価収益率については、第9期は、当社株式が期中を通じて非上場であるため記載しておりません。

5. 当社は2014年7月8日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また2015年2月1日付で普通株式1株につき5株の株式分割を行っておりますが、第9期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

6. 第11期以降の1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式の期末株式数並びに期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社普通株式の期末株式数並びに期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2014年8月	2015年8月	2016年8月	2017年8月	2018年8月
売上高 (千円)	2,092,109	3,259,591	4,940,011	5,497,499	9,602,879
経常利益 (千円)	174,180	319,444	559,994	192,480	814,264
当期純利益 (千円)	116,247	196,401	352,376	124,695	165,458
資本金 (千円)	452,950	570,844	574,869	578,269	585,694
発行済株式総数 (株)	2,513,600	14,410,500	14,466,500	14,490,000	14,542,000
純資産 (千円)	1,049,806	1,484,322	1,784,191	1,916,282	2,096,613
総資産 (千円)	1,515,528	2,167,630	3,152,632	4,555,814	5,295,608
1株当たり純資産額 (円)	83.53	102.82	123.88	132.80	144.78
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益 (円)	9.25	14.06	24.49	8.66	11.45
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)		12.76	22.66	8.01	10.61
自己資本比率 (%)	69.3	68.4	56.5	42.0	39.5
自己資本利益率 (%)	11.7	15.5	21.6	6.7	8.3
株価収益率 (倍)		75.58	55.93	163.81	426.02
配当性向 (%)					
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用 人員〕 (名)	130 〔189〕	201 〔346〕	309 〔382〕	417 〔370〕	657 〔491〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第9期は、新株予約権の残高がありますが、当社株式は期中を通じて非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

3. 当社株式は2014年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。第10期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の計算においては、新規上場日から第10期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

4. 株価収益率については、第9期において、当社株式が期中を通じて非上場であるため記載しておりません。

5. 当社は2014年7月8日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、2015年2月1日付で普通株式1株につき5株の株式分割を行っておりますが、第9期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

6. 第11期以降の1株当たり純資産並びに1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式の期末株式数並びに期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期末株式数並びに期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

2 【沿革】

年月	概要
2005年9月	東京都渋谷区にて当社設立（資本金7,000千円） 主として製造業向けに、コンサルティングサービスを提供
2006年7月	業務拡大に伴い本社を東京都品川区に移転
2007年10月	業務拡大に伴い本社を東京都港区麻布台に移転
2009年11月	ソフトウェアテスト事業部を設立し、ソフトウェアテスト事業を開始
2009年11月	東京都港区麻布台に東京テストセンターを開設
2010年6月	業務拡大に伴い本社及び東京テストセンターを東京都港区虎ノ門に移転
2010年9月	北海道札幌市に札幌テストセンターを開設
2010年11月	ソフトウェアテスト適性能力を測定する「CAT検定」をリリース
2011年4月	「みんテス」サービスの開始
2011年6月	株式会社アドバゲーミングの全株式を取得し連結子会社化
2011年8月	業務拡大に伴い本社及び東京テストセンターを東京都港区赤坂に移転
2011年12月	福岡県福岡市に福岡テストセンターを開設
2012年4月	ソフトウェアテスト事業の海外展開に向けて、インド国マハラシュトラ州に100%子会社としてSHIFT INDIA PRIVATE LIMITED（現連結子会社）を設立
2012年6月	業務拡大に伴い札幌テストセンターを拡張移転
2012年8月	ソフトウェアテストの教育サービスとしてヒンシツ大学を開講
2012年9月	ソフトウェアテスト事業の海外展開に向けて、シンガポール共和国に100%子会社としてSHIFT GLOBAL PTE LTD（現連結子会社）を設立
2012年10月	業務拡大に伴い東京テストセンターを増床
2012年10月	情報セキュリティマネジメントシステムのISMS（ISO27001:2005）の認証を取得
2013年1月	シンガポール共和国にCHATPERF HOLDINGS PTE LTD（現SCENTEE HOLDINGS PTE LTD 2014年2月に社名変更）を設立し、CHATPERF HOLDINGS PTE LTDが着パフ株式会社（現SCENTEE株式会社 2014年7月に社名変更）の全株式を取得し子会社化
2014年1月	業務拡大に伴い本社及び東京テストセンターを東京都港区麻布台に移転
2014年6月	業務拡大に伴い札幌テストセンターを拡張移転
2014年7月	ソフトウェアテスト事業に経営資源を集中させるため、SCENTEE HOLDINGS PTE LTD、SCENTEE株式会社を売却
2014年10月	ソフトウェアテスト事業に経営資源を集中させるため、株式会社アドバゲーミングの全株式を売却
2014年11月	東京証券取引所マザーズ市場に上場し、公募増資及び第三者割当増資により、総額212,888千円の資金調達を行う
2015年3月	業務拡大に伴いSHIFT INDIA PRIVATE LIMITEDを拡張移転
2015年4月	株式会社オルトプラスとの合併会社である株式会社SHIFT PLUS（現持分法適用関連会社）を設立
2015年5月	業務拡大に伴い福岡テストセンターを拡張移転
2015年9月	業務拡大に伴い東京テストセンターを増床
2015年10月	株式会社フィックスターズとの合併会社である株式会社アイ・イー・テック（現持分法非適用関連会社）を設立
2016年1月	株式会社リベロ・プロジェクト（現連結子会社）の全株式を取得し連結子会社化
2016年3月	ソフトウェアテスト事業の海外展開に向けて、ベトナム社会主義共和国に100%連結子会社としてSHIFT ASIA CO., LTD.（現連結子会社）を設立
2016年6月	100%連結子会社として株式会社SHIFT SECURITY（現連結子会社）を設立

年月	概要
2016年9月	株式会社メソドロジック（現連結子会社）の株式を取得し連結子会社化

2016年11月	ALH株式会社（現連結子会社）の株式を取得し連結子会社化
2017年6月	業務拡大に伴い東京テストセンターを増床
2017年10月	愛知県名古屋市に名古屋事業所を開設
2017年12月	大阪府大阪市に大阪テストセンターを開設
2018年1月	業務拡大に伴い東京テストセンターを増床
2018年4月	Airitech株式会社（現連結子会社）の株式を取得し連結子会社化

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社、以下「当社グループ」）は、当社、連結子会社13社及び関連会社2社の計16社で構成されており、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」ことを企業理念に掲げ、「すべてのソフトウェアにMade in Japanの品質を」を合言葉としてソフトウェアテストサービスを中心に展開しております。当社グループの事業内容は次のとおりであります。

ソフトウェアは通常、ユーザーにどのようなサービスを提供できるか、それを達成するために必要な仕様や機能を設計する要求定義・要件定義フェーズから、開発フェーズ、そして動作検証を行うテストフェーズを経てリリースされます。

そのうち、要求定義から開発まではコンサルティングファームや上流SIerによるアウトソーシングが一般的ですがテストフェーズは、標準化が図られておらず、また専門技術、知識が必要であるという認識も大変低いため、社内エンジニアを中心とした作業とするところが多く、国内ではアウトソーシングが進んでおりません。

このテストフェーズの市場規模は、主としてソフトウェア業を営む企業の売上が14兆8,966億円（総務省及び経済産業省による「平成29年情報通信業基本調査」）あり、開発工程に占めるテスト工程の割合が約33%（IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）による「ソフトウェア開発データ白書2016-2017」）であることから、約5兆円と推定されます。

また、こうしたテストアウトソーシングマーケットは、エンタープライズ向けの受託開発・パッケージソフトウェアのテスト作業（エンタープライズ系）、組込みソフトウェアのテスト作業（エンベデット系）、そしてソーシャルゲームなどのゲームソフトウェアのテスト作業（エンターテインメント系）に分類できますが、とりわけエンタープライズ系は高度な業務知識や開発知識が必要とされるため参入障壁が高く、アウトソースがほとんど進んでいない状況と考えております。

加えて、エンタープライズ向けソフトウェアは、確実に安全に動作することが社会的に求められてきており、また、そのようなソフトウェアを選定していくことが重要な経営課題として位置づけられてきているため、高度なソフトウェアテストに関する専門知識を有する第三者による検証やアウトソーシングをすることが必須要件となりつつあります。

このように、発展的成長が見込まれる魅力的な市場に対し、当社グループは単なる人材リソースの提供にはとどまらず、独自の метод論に基づき標準化された高品質かつ費用対効果の高いテストアウトソースを実現するソリューションサービスから、そこで培ったノウハウや膨大なデータを基に行われる高付加価値のコンサルティングサービスまでを一貫して提供しております。

[当社グループのソフトウェアテストの特徴について]

当社グループが展開するソフトウェアテストサービスは、開発上流工程から提供するプロジェクトマネジメント支援、より円滑で不具合の出にくい開発の実現に向けたコンサルティングサービス、下流工程にて開発された製品に対して実施するテスト設計、テスト実行サービスなど開発工程のそれぞれのフェーズに対応するサービスを展開しております。

コンサルティングサービスは、当社設立以来の継続事業であります。2009年11月にソフトウェアテスト事業を開始し、安心安全なソフトウェア製品で満たされた社会の実現を目指し、それぞれのサービスが密接な連携を保ちながら、当社グループ事業を牽引しています。いずれのサービス領域においても、これまでの属人的に行われてきたソフトウェア開発工程を効率化・標準化することで新しい価値を創造し、顧客企業に「ソフトウェアにMade in Japanの品質を」を支援しています。

それらを支えるテスト実行業務を提供するテストエンジニアについては、独自に開発した検定制度である「CAT検定（）」により、ソフトウェアテストの適性を評価しております。これによりソフトウェア開発経験の有無に関わらずソフトウェアテストの本質的な適性を評価でき、広く優秀な人材による高品質なテスト実行業務の提供が可能となっております。

また、テスト実行の生産性を評価するために、独自に開発したテスト支援ツール「CAT（）」（以下CATという）を運用しており、テスト実行の進捗状況・問題工程がリアルタイムで可視化されるため、テスト実行時の問題発見を迅速に行うことが可能です。CATは、当社グループのバックグラウンドでもある製造業向けコンサルティングで培った「効率化」「可視化」「再現可能性」の工程管理手法を盛り込んだシステムになっており、属人性を減らし生産性の高いテスト業務を行うことを可能としております。



■テスト支援ツール「CAT」の画面イメージ



CAT検定・・・当社グループが独自に開発したソフトウェアテスト適性を評価するための検定試験。ソフトウェアテスト管理者、設計者、実行者、ソーシャルゲームテスターの4区分での検定試験により適性を評価できる。

CAT・・・高速で信頼性に優れ簡単に管理できるテスト設計、実行を支援する統合環境。テスト設計の支援ツールTD (Test Design) とテスト実行支援ツールTCM (Test Cycle Management) で構成される。

自動テストのためのスクリプト・・・あらかじめテストを実施するステップを定義しておき、各ステップ実施による予期される結果を記載したものの。ソフトウェアの品質を保証するための文書化された証拠となる。

上記サービスを提供する各セグメントは以下の通りです。

エンタープライズ市場

エンタープライズ市場とは、金融業、流通業、製造業、通信業、ウェブサービス業など大規模かつ社会基盤を支える企業における業務システムや情報システムにおいて、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供するものであります。

既述の通り、ソフトウェアテスト工程をアウトソーシングする文化がない業界における挑戦のため、第三者による検証の重要性、コスト効果などのメリットに基づく啓発活動を実施しながら、獲得するトライアル案件での顧客期待を上回る成果を出すことにより、信頼を獲得し新たなニーズを創造してまいりました。

具体的には、顧客企業に対し、これまで培った開発業界における企業情報、開発、不具合情報をもとに、それぞれの事業会社の要求を満たすための製品・ベンダーの選出、ソフトウェアテストや品質保証の体制構築の支援、ソフトウェアテストに関する戦略、計画の策定支援、ソフトウェアテストの設計工程の受託などをしております。

システム開発計画段階から当社グループのコンサルタントが参画し、体制・計画・教育までを含めた組織のリニューアルを品質向上・テスト作業効率向上の観点から提案実行、安定した品質の作り込みを実現することで顧客企業の課題解決に貢献しております。

エンタープライズ領域における主なサービス提供例は以下のとおりです。

提供するサービスの例	内容
テストCoE()サービス	主に大手事業会社を中心に展開しているサービス。1社あたり複数の開発プロジェクトが進行している際、それぞれにおけるテスト業務部分を横串に切り出しリソース、情報の共有化を図ることにより、プロジェクト毎の品質レベルのバラつきなどを防ぎ、コストメリットの高い開発プロジェクトと高品質な製品リリースを支援しております。
PMO()サービス	当社グループの品質保証ノウハウ・ナレッジを効果的に提供するため、PMOの立場として開発計画段階から、開発体制構築・テスト設計・テスト実行の方法論を計画し、開発工程の上流から下流までをトータルで支援しております。
テスト戦略立案支援サービス	品質管理に課題を抱える顧客企業に対し、顧客企業の開発、テストに関する現況を調査し、ニーズにあわせた最適な品質保証体制を提案し、構築することを支援しております。また、テストの自動化を計画する企業に対し、テスト自動化の体制構築を支援することも行っております。

テストCoE・・・テストCenter of Excellenceの略。

PMO・・・プロジェクトマネジメントオフィス。企業内で、個々のプロジェクトのマネジメント支援を専門に行う部門。社内のプロジェクトマネジメント方式の標準化や研修などを通じての普及、実施中のプロジェクトの管理業務の支援、プロジェクト間の調整などを行う。

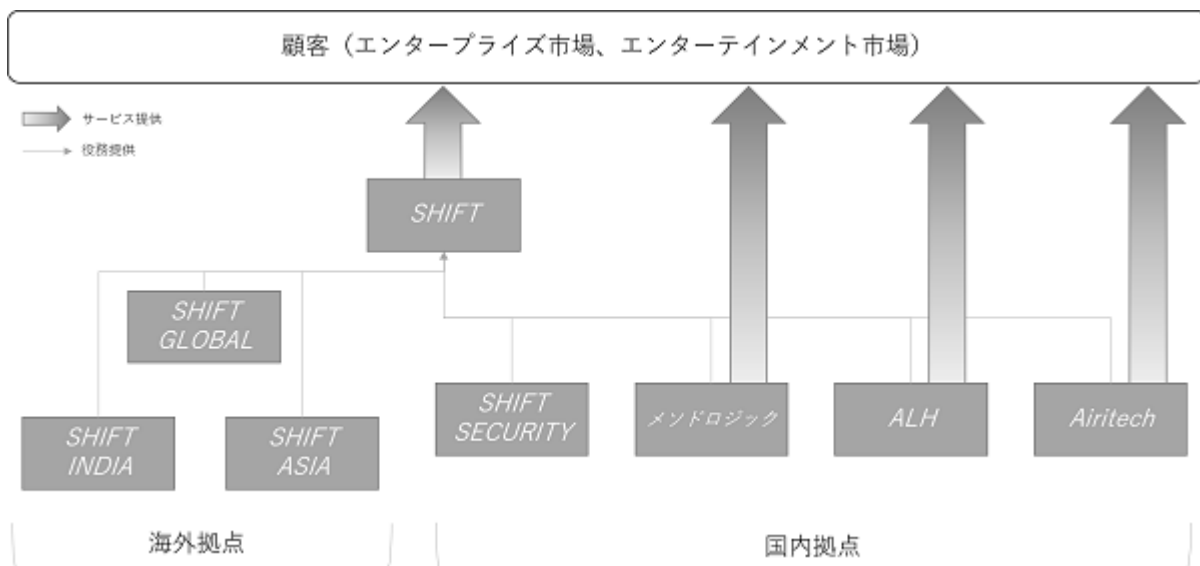
エンターテインメント市場

エンターテインメント市場とは、モバイルゲーム、コンシューマーゲーム、アミューズメントゲームなどを中心とした娯楽を提供する企業向けに、品質保証に関するサービス全般を提供するものであります。

大手同業企業様が既に市場開拓されたレッドオーシャンではありますが、最後発である当社グループは、競合他社との明確な差別化を図り、2013年の業界参画以来、新規顧客数、新規タイトル数とそれに伴った売上高など毎年堅調に伸ばしております。

[事業系統図]

当社グループの事業系統図は、以下のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有(又は被所有)割合(%)	関係内容
(連結子会社) SHIFT INDIA PRIVATE LIMITED	インド国マハラシュトラ州	千INR 500	ソフトウェア開発、ソフトウェアテストサービス	100.0 (0.2)	ソフトウェア開発委託 役員の兼任 1名
SHIFT GLOBAL PTE LTD	シンガポール共和国	千SGD 100	ソフトウェア開発、ソフトウェアテストサービス	100.0	役員の兼任 3名
SHIFT ASIA CO., LTD. (注)2	ベトナム社会主義共和国ホーチミン市	千USD 500	ソフトウェアテストサービス	100.0 (100.0)	業務委託 役員の兼任 1名
株式会社 SHIFT SECURITY	東京都港区	千円 5,000	ソフトウェア脆弱性診断サービス	65.0	業務委託 役員の兼任 2名
株式会社メソドロジック	東京都港区	千円 15,000	IT戦略コンサルティングサービス	66.7	業務委託 役員の兼任 2名
ALH株式会社 (注)2、4	東京都目黒区	千円 9,000	ITソリューションサービス	90.0 (90.0)	業務委託 役員の兼任 2名
Airitech株式会社 (注)5	東京都港区	千円 15,900	システムコンサルティングサービス	57.1	業務委託 役員の兼任 2名
その他6社					
(持分法適用関連会社) 株式会社SHIFT PLUS	高知県高知市	千円 30,000	カスタマーサポートサービス ソフトウェアテストサービス	41.7	役員の兼任 1名

- (注) 1. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。
2. 特定子会社であります。
3. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
4. ALH株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	2,873,149	千円
	経常利益	132,695	〃
	当期純利益	96,462	〃
	純資産	366,698	〃
	総資産	807,651	〃

5. 2018年4月2日付で株式を取得し、連結子会社としております。
6. 上記の他、持分法非適用関連会社1社が、当社グループに属しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2018年8月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
エンタープライズ市場	1,049 [228]
エンターテインメント市場	85 [266]
全社(共通)	137 [40]
合計	1,271 [534]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
 2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
 3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
 4. 前連結会計年度末に比べ従業員数が305名増加しておりますが、主な理由は、業務拡大に伴う新規採用及び新たに2社を連結したためであります。

(2) 提出会社の状況

2018年8月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
657 [491]	35	3	5,458,292

セグメントの名称	従業員数(名)
エンタープライズ市場	493 [213]
エンターテインメント市場	85 [266]
全社(共通)	79 [12]
合計	657 [491]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
 4. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
 5. 前連結会計年度末に比べ従業員数が240名増加しておりますが、主な理由は、業務拡大に伴う新規採用によるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」ことを企業理念とし、世の中の人が幸せになるサービスや事業を創造していくことを目指しています。

(2) 経営戦略等

当社グループは、上述の企業理念に基づき、売上高1,000億円に向け成長をさらに加速させ、ギアチェンジを行う新たな通過点として「SHIFT300」を策定いたしました。

創業以来、製造業における業務改善コンサルティングの知見を持って、ソフトウェア開発分野における属人化された業務のプロセスを変革し、開発エンジニアとテストエンジニアの分業を進めていくことで開発エンジニアが開発工程に集中し、開発に専念できる環境を整備するなど、ITエンジニアの働き方を変革してまいりました。

今後は、安全・安心・快適で、無駄のないスマートな社会の実現に向け「品質」の観点から多角的なサービス展開を行うことを目指し、開発工程の上流から下流までの工程における無駄を当社グループに蓄積されたデータを元に改善し、顧客のビジネススピードを変革してまいります。

そのために、これまでのソフトウェアテストサービスで蓄積された品質に関わる「人」「物」「お金」のデータを再構築することで、IT業界に向けた新たな価値を創造し提供してまいります。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当社グループは、経営上の目標の達成状況を判断するため、売上高成長率、営業利益率、自己資本当期純利益率（ROE）を客観的な指標とし、親会社株主に帰属する当期純利益や加重平均資本コスト（WACC）を念頭に経営しております。

(4) 経営環境並びに事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループは、今後のさらなる成長を実現する上で、以下の事項を経営課題として重視しております。

営業展開について

総務省及び経済産業省による「平成29年情報通信業基本調査」によると、わが国において主としてソフトウェア業を営む企業の売上高は14兆8,966億円と試算されております。また、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）が公表する「ソフトウェア開発データ白書2016-2017」によると開発工程に占めるテスト工程の割合は、約33%とされており、当社グループの対面するソフトウェアテストの市場規模は約5兆円と推定されます。

しかしながら、依然として顧客企業内においてソフトウェア開発者がテスト工程の業務を行っているのが主流であり、ソフトウェアテストのアウトソース需要は拡大傾向にあるものの、日本国内で顕在化しているアウトソース市場は小規模なものにとどまっております。

当社グループは、この潜在的な5兆円の市場に対して、既存の労働集約的なサービスではなく、仕組化・標準化されたソフトウェアテストサービスを提供することにより、顧客のニーズを喚起し、アウトソース市場を掘り起こしてきました。

さらに、注力業界である金融・流通業における、あらゆる企業へのサービス展開を目指すべく、営業体制の強化を図ってまいります。

サービスラインナップの強化

当社グループは、独自に標準化・仕組化されたノウハウに基づきソフトウェアテストを提供しており、その対象分野は、特定の業種業態にとらわれない幅広い分野を対象としつつ、テストの対象もスマートフォン向けの小規模なアプリケーションから金融機関の基幹システムなどの大規模なものまで、規模や開発言語・手法にもとらわれない幅広いものとなっております。

今後さらに事業規模を拡大していく上では、金融業等の特に規模が大きな市場での当社グループの事業拡大を実現するために、各業界における高度な業務知識の拡充、サービスラインナップの強化が重要な課題であると認識しております。

こうした課題に対応するため、金融業・流通業などの各注力業界に精通したプロジェクトマネジメントやコンサルティングスキルに長けた専門性が高く優秀な人材の確保、育成を進めてまいります。また、柔軟な組織体制を構築し、より専門性の高いチーム編成を行うことで、網羅的なサービスラインナップ強化を進めてまいります。

人材採用力の強化

当社グループは、それまで開発者が行ってきた検証工程を、開発者以外であっても実行できるように、作業工程の徹底的な標準化を行うことでIT人材以外の人材を採用してまいりました。また、注力業界である金融・流通業での事業拡大のため、業界知識の豊富な人材の採用も同時に行ってまいりました。

1,000億円企業を目指すにあたっては、上述の営業展開やサービスラインナップの強化を進めるため、各分野のスペシャリストの採用が早期に取り組むべき課題であると認識しております。

こうした課題に対応するため、従前の採用手法だけにとどまらず、あらゆる採用手法を積極的に取り入れ、採用体制の強化を進めてまいります。

海外展開

海外のソフトウェア開発市場は日本よりも大きく、また、ソフトウェアテストのアウトソース市場の顕在化も進んでおります。

そのため、当社グループにおけるサービスの海外展開は長期的な成長を実現するために取り組むべき課題であると認識しております。当社グループでは、海外子会社を設立し、日本で培ったソフトウェアテストのノウハウに基づき、コスト競争力に優れたリソースを利用したサービスの開発を進めております。こうしたサービス提供の準備が整い次第、北米などの主要なソフトウェア開発市場へ進出を図ってまいります。

企業ブランドの醸成と新規事業展開

当社グループは現在ソフトウェアテストサービスを中心とした事業展開を図っており、標準化された高品質なサービス提供によって業務アプリケーション領域におけるソフトウェアテストのリーディングカンパニーとしての地位を確立しつつあるものと認識しております。

一方で当社グループは、「新しい価値の創造」を目指し、世界中で通用するサービスを創造することを企業理念に掲げており、品質を軸として積極的な事業展開を行い、新しい価値を創造する企業としてのブランドを醸成していくことが重要な課題であると認識しております。こうした課題に対応するため、収益の柱としてのソフトウェアテストサービスの提供を拡大させる一方で、開発工程の上流からサービスを提供することで開発全体の品質保証を図るべく領域の拡大を目指しており、既存事業との関連性、収益性、社会性、従業員の士気向上への影響等を考慮した上で、1,000億円企業に向かって新たなサービスの創出と一定の割合を定めて新規事業に積極的に投資し、「スマートな社会」の実現に向けて、なくてはならないSHIFTグループのポジショニングを強化してまいります。

内部管理体制の強化

当社グループは、さらなる事業拡大を推進し、企業価値を向上させるためには、効率的なオペレーション体制を基盤としながら、内部管理体制を強化していくことが重要な課題であると認識しており、コンプライアンス体制及び内部統制の充実・強化を図ってまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性があるリスク要因として考えられる主な事項には、以下のものがあります。

当社グループは、これらリスク要因を認識した上で、その発生自体の回避、あるいは発生した場合の対応に努める方針であります。これらすべてのリスクを網羅したものではなく、予見しがたいリスク要因も存在するため、投資判断については、本項以外の記載内容もあわせて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) ソフトウェアテスト市場の動向について

当社グループは、ソフトウェアテストサービスを中心とした事業展開を図っております。この当社グループが提供しているソフトウェアテストのアウトソース市場は、ソフトウェア開発会社の品質意識の高まりやIT人材不足等の社会的要請を背景に拡大傾向にあり、当社グループは、今後もこの傾向は継続するものと見込んでおります。

しかしながら、当社グループの期待どおりにソフトウェアテストのアウトソース市場が拡大しなかった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 競争激化の可能性について

当社グループは、独自に標準化・仕組化した高品質なソフトウェアテストサービスにより、国内のソフトウェアテストアウトソース業務を提供する競合各社に対し、差別化を図っております。

しかしながら、ゲーム、スマートフォンアプリケーションなどのような、比較的シンプルなソフトウェアテスト業務の領域においては、テスト業務が労働集約的になりやすく、参入障壁が低いため、多数の競合事業者が参入しており、競合が生じております。

また、海外には多数のソフトウェアテストを専業とする会社が存在しており、そうした企業が日本国内に市場参入する場合、価格競争が激しくなる可能性があります。

当社グループは、自社のソフトウェアテストサービスの標準化・仕組化を推し進めることにより、競合各社に対して差別化を図れるものと考えておりますが、競争激化に対して十分な差別化が図られなかった場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 人材の確保について

当社グループの提供するソフトウェアテストサービスでは、独自に開発した検定制度である「CAT検定」を経て採用された従業員等によって提供されているため、当社グループの認める水準をクリアした従業員等を安定的に確保することは非常に重要であります。そのため、当社グループは、継続的に従業員等を採用・教育し、また、協力会社との連携を強化することで、十分な人材の確保に努めております。

しかしながら、何らかの理由で業務上必要とされる十分な従業員等を確保することができなかった場合には、円滑なサービス提供や積極的な受注活動が阻害され、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 瑕疵担保責任等について

当社グループでは、業務委託を中心とした契約形態でソフトウェアテストサービスを提供しています。ソフトウェアテストサービスの実施にあたっては、顧客企業に対して、ソフトウェアテストサービスはソフトウェア等に含まれる不具合等の全てを発見することを保証するものではなく、また、ソフトウェア等の完全性を保証するものではないことを十分説明するよう努めており、契約上も一定の免責条項等を規定しております。しかしながら、何らかの事情により当社グループが瑕疵担保責任あるいは損害賠償責任の追及を受け、賠償責任を負うこととなった場合には当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 機密情報の漏洩について

当社グループの提供しているソフトウェアテストサービスにおいては、顧客企業よりソフトウェア等の開発に関する機密情報を預かるため、当該機密情報の外部漏洩のないよう従業員等と秘密保持契約を締結するとともに、指紋認証システムによる入退室管理、監視カメラによる24時間365日の監視等、様々な漏洩防止施策を講じ、また、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である「ISO27001:2005」(ISMS)の認証を取得し、情報の適正な取扱いと厳格な管理を行っております。

しかしながら、これらの施策にもかかわらず、何らかの理由により機密情報や個人情報外部に漏洩した場合には、当社グループへの損害賠償責任の追及や社会的信用の喪失等により、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 労働者派遣法による規制について

当社グループが提供するサービスは、一部において実務作業者の派遣業態による提供を行っており、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」(労働者派遣法)に基づく厚生労働大臣の「一般労働者派遣事業」の許可を事業所ごとに取得しており、同法の規制を受けております。

当社グループにおいては、法令遵守を徹底し事業を運営しておりますが、万一法令違反に該当するような事態が生じた場合、顧客企業からの信頼度が低下する等の可能性があります。当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 海外展開について

当社グループは積極的に海外におけるサービス展開の拡大を図っていく方針であります。しかしながら、海外での事業活動においては、予期せぬ法律または規制の変更、大規模な自然災害の発生、政治経済の変化、為替変動、商習慣の相違、雇用制度や労使慣行の相違、不利な影響を及ぼす租税制度の変更等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 新規事業展開について

当社グループは、「新しい価値の創造」を目指し、世界中で通用するサービスを創造することを企業理念に掲げており、ソフトウェアテスト以外の領域においても積極的な事業展開を行い、新しい価値を創造する企業としてのブランドを醸成していくことが重要な課題であると認識しております。こうした課題に対応するため、収益の柱としてのソフトウェアテストサービスを拡大させる一方で、既存事業との関連性、収益性、社会性、従業員の士気向上への影響等を考慮した上で、一定の割合を定めて新規事業に積極的に投資しております。

今後も企業理念に従い新たなサービスの創出と新規事業の展開を行う可能性がありますが、これらの活動は不確定要素が多く、事業計画を達成できなかった場合は、それまでの投資負担が、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) M&Aについて

当社グループは、既存サービスの強化、グローバル展開の加速及び新たな事業領域への展開等を目的として、国内外におけるM&Aを事業展開の選択肢の一つとして考えております。

M&Aを行う際には、対象企業の財務内容や契約関係等について、弁護士・税理士・公認会計士等の外部専門家の助言を含めたデューデリジェンスを実施すること等により、各種リスク低減に努めております。

しかしながら、M&Aによる事業展開においては、当社グループが当初想定したシナジーや事業拡大等の効果が得られない可能性があることに加えて、新規事業領域に関しては、M&Aによりその事業固有のリスク要因が加わる可能性があります。これらに加えて、子会社化後の業績悪化やのれんの償却又は減損等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 配当

当社グループは、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、将来の事業拡大と財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的配当を実施していくことを基本方針としておりますが、いまだ内部留保が充実しているとはいえず、創業以来配当を行っておりません。

当連結会計年度については、内部留保を確保するために、利益配当は見送りとしております。

将来的には、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案しながら株主への利益還元を検討していく方針であります。

内部留保資金につきましては、事業拡大を目的とした中長期的な事業原資として利用してまいります。

(11) 代表者への依存について

当社代表取締役社長である丹下大は、当社グループの創業者であり、創業以来の最高経営責任者であり、当社グループの事業運営における事業戦略の策定や業界における人脈の活用等に関して、重要な役割を果たしております。

当社グループは、同氏への過度な依存を回避すべく、経営管理体制の強化、経営幹部職員の育成、採用を図っておりますが、現時点において同氏に対する依存度は高い状況にあると考えております。今後において、何らかの理由により同氏の当社グループにおける業務遂行の継続が困難となった場合、当社グループの事業運営等に影響を及ぼす可能性があります。

(12) ストック・オプションについて

当連結会計年度末現在、ストック・オプションによる潜在株式は、1,590,500株であり、発行済株式総数14,542,000株の10.94%に相当しております。当社の株価が行使価額を上回り、かつ、権利行使についての条件が満たされ、これらの新株予約権が行使された場合には、1株当たりの株式価値が希薄化することになります。

なお、新株予約権の詳細は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」をご参照ください。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び、連結子会社持分法適用会社）の財政状況、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が長期的に継続しておりますが、政治的要因による海外経済の不確実性や国際金融市場の変動もあり、世界経済の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、開発と運用が相互に連携しあう開発手法であるDevOps（デブオプス）や労働人口の減少と政府が掲げる働き方改革の元で注目されているRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）といった新たな開発手法や技術が出現してきております。また、企業経営を支える基幹システムの老朽化や保守体制の更新を主としたマイグレーションなどといった不変的なIT投資が期待される一方で、仮想通貨の不正アクセスによる外部流出などに代表されるセキュリティ問題も深刻化しています。

こうした経営環境の中、当社グループでは当連結会計年度を売上高1,000億円企業に向けた、2つ目の通過点である成長戦略「SHIFT300 -シフトスリーハンドレッド-」の一年目として位置づけ、品質保証業に向けた「サービスの強化と新しい価値の創造」、業界No. 1のポジショニングのための「アカウント強化」、「人材の強化・育成」を重点課題として取り組んでまいりました。

当連結会計年度は、「アカウントの強化」として、前連結会計年度より取り組んできた各業界トップ企業との関係強化に加え、注力業界の顧客獲得・受注拡大が進みました。また、「サービスの強化と新しい価値の創造」として、新たなサービス開発と他社との業務連携を積極的に推進し、「人材の強化・育成」として、多様な採用手法や人材交流等の促進を行いました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は、以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

（資産）

当連結会計年度末における資産につきましては、前連結会計年度末に比べ954,112千円増加し、6,284,898千円となりました。これは主に、取引高の増加により、現金及び預金が497,372千円、売掛金が530,222千円、テストセンターの増床等により、建物が109,844千円、敷金及び保証金が157,950千円増加し、また、投資有価証券が343,133千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当連結会計年度末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ565,430千円増加し、3,778,464千円となりました。これは主に、取引高の増加に伴い、未払費用が196,532千円、未払法人税等が218,608千円、その他流動負債が388,275千円増加し、また、長期借入金金が350,647千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当連結会計年度末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ388,681千円増加し、2,506,433千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことにより利益剰余金が368,239千円増加したこと等によるものであります。

b. 経営成績

当連結会計年度の売上高は12,792,680千円（前年度比56.5%増）、営業利益は1,200,902千円（前年度比206.8%増）、経常利益は1,238,510千円（前年度比181.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は368,239千円（前年度比76.5%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

（エンタープライズ市場）

エンタープライズ市場では、金融業、流通業、製造業、通信業、ウェブサービス業など社会基盤を支える企業における業務システムや情報システムにおいて、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供しております。

当連結会計年度では、特にIT投資規模が大きい金融業、流通業を注力業界として定め取り組んだ結果、長期的な関係構築を視野に入れたプロジェクトへの参画が進み、こうした新規顧客からの売上高が徐々に増加してまいりました。

この結果、当連結会計年度のエンタープライズ市場の売上高は11,276,603千円（前年度比64.2%増）、営業利益は2,610,429千円（前年度比89.9%増）となりました。

（エンターテインメント市場）

エンターテインメント市場では、モバイルゲーム、ソーシャルゲーム、コンシューマゲーム等を中心とした娯楽を提供する企業向けに、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供しております。

当連結会計年度では、エンタープライズ市場との社内シナジーを生かし、競合との差別化を図ったことによる既存顧客の受注が拡大し、新規拠点の開設などを行うことにより収益基盤の強化を進めました。

この結果、当連結会計年度のエンターテインメント市場の売上高は1,516,076千円（前年度比16.1%増）、営業利益は400,412千円（前年度比18.8%増）となりました。

<セグメント別売上高>

セグメントの名称	2017年8月期 前連結会計年度		2018年8月期 当連結会計年度		前連結会計年度比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
エンタープライズ市場	千円 6,868,550	% 84.0	千円 11,276,603	% 88.1	千円 4,408,053	% 64.2
エンターテインメント市場	1,305,511	16.0	1,516,076	11.9	210,564	16.1
合計	8,174,062	100.0	12,792,680	100.0	4,618,618	56.5

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は前連結会計年度末より497,372千円増加し、2,474,400千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動により獲得した資金は1,247,514千円（前年同期は394,241千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益834,897千円、投資有価証券評価損403,613千円、未払金及び未払費用の増加361,830千円等の資金の増加要因があったものの、売上債権の増加額552,928千円、法人税等の支払額226,148千円等の資金の減少要因があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動により使用した資金は272,130千円（前年同期は1,255,466千円の使用）となりました。これは主に、長期預金の払戻による収入150,000千円等の資金の増加要因があったものの、有形固定資産の取得による支出130,908千円、無形固定資産の取得による支出70,099千円及び敷金の差入による支出173,680千円等の資金の減少要因があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動により使用した資金は355,875千円（前年同期は1,195,581千円の獲得）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出342,883千円等の資金の減少要因があったこと等によるものであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

該当事項はありません。

b. 受注実績

当社グループの提供するサービスは、受注から販売までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ一致するため、記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメント毎に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
エンタープライズ市場	11,276,603	64.2
エンターテインメント市場	1,516,076	16.1
合計	12,792,680	56.5

(注) 1. セグメント間の取引はありません。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社ワークスアプリケーションズ	908,946	11.1		

3. 当連結会計年度の株式会社ワークスアプリケーションズについては、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループにおける経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表の作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、重要な会計方針につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は、12,792,680千円となり、前連結会計年度に比べ4,618,618千円増加(前年度比56.5%増)となりました。

これは、エンタープライズ市場・エンターテインメント市場の両市場において既存顧客が堅調に拡大したことに加え、特にエンタープライズ市場において、IT投資額が大きい金融業・流通業を当期注力領域と定め、戦略的な新規顧客開拓を進めた結果、特に下期において受注規模が拡大し、売上高の成長を牽引したことが主な要因であります。

(売上原価、売上総利益)

当連結会計年度の売上原価は8,900,938千円となり、前連結会計年度に比べ3,006,021千円増加(前年度比51.0%増)し、また、売上総利益は3,891,742千円となり、前連結会計年度に比べ1,612,597千円増加(前年度比70.8%増)となりました。売上総利益率については、当連結会計年度で30.4%となり、前連結会計年度27.9%に対して2.5ポイント向上いたしました。

当連結会計年度においては、既存顧客との関係性を深耕したことによるパートナーシップの強化や、市場のニーズに呼応した付加価値の高いサービス提供を積極的に進めてきたことに加えて、コスト管理体制の強化活動が奏功し、売上総利益率が改善いたしました。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は2,690,839千円となり、前連結会計年度に比べ803,173千円の増加(前年度比42.5%増)となりました。この主な要因は、給料及び手当193,214千円及び採用費278,446千円が増加したことによるものであります。

この結果、営業利益は1,200,902千円となり、前連結会計年度に比べ809,423千円の増加(前年度比206.8%増)となりました。営業利益率については、当連結会計年度で9.4%となり、前連結会計年度4.8%に対して4.6ポイント向上いたしました。これは、上述の売上総利益率の向上に加えて、予算管理体制の強化等を行ったことなどによるものであります。

(経常利益)

当連結会計年度において、助成金収入により営業外収益を38,192千円計上し、為替差益を3,970千円計上いたしました。一方で支払利息の発生等により営業外費用を7,799千円計上いたしました。この結果、経常利益は1,238,510千円(前年度比181.1%増)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度において、投資有価証券評価損を403,613千円計上したことにより、税金等調整前当期純利益は834,897千円(前期比89.2%増)となり、法人税等が397,523千円、非支配株主に帰属する当期純利益が69,133千円計上された結果、親会社株主に帰属する当期純利益は368,239千円(前期比76.5%増)となりました。

b. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、中長期的に持続的な成長を図るため、従業員等の採用にかかる費用や人件費等の製造費、販管費及び一般管理費等の営業費用への資金需要があります。

当連結会計年度における資金の主な増減要因については、「第2 事業の概況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しておりますが、経常的な運転資金や事業規模拡大による設備投資等につきましては、営業活動によるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入により調達された資金を財源としております。

c. 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」という企業理念のもと、優秀な人材を集め、世界で必要とされる製品・サービスを創造し、それを世界中の人に使うことによって価値貢献したいと考えています。そのために、当社グループは、高い収益性をもって成長し続けることを目標としており、成長性と収益性、効率性のバランスをとりながら経営を行ってまいります。

具体的な指標として、売上高成長率、売上高営業利益率、自己資本当期純利益率（ROE）を高水準で維持していくことを目標としておりますが、企業価値算定の基礎となる親会社株主に帰属する当期純利益や加重平均資本コスト（WACC）を念頭に経営を行うことで企業価値の最大化を図ってまいります。

当連結会計年度を含む、直近3連結会計年度の代表的な指標の推移は以下のとおりです。

(単位：%)

	2016年8月期	2017年8月期	2018年8月期
売上高成長率	167.6	148.3	156.5
売上高営業利益率	9.4	4.8	9.4
自己資本当期純利益率 (ROE)	19.1	11.4	17.4

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は、273,650千円となりました。その主なものは以下のとおりであります。

提出会社において、2018年1月に、業務拡大に対応し東京テストセンターを増床し、建物41,178千円等総額58,156千円の設備投資を行っております。また、ソフトウェアテスト業務の効率化のために、独自に開発しているテスト支援ツール「CAT」に対して機能追加に係る開発を行っており、ソフトウェアに66,477千円の投資を行っております。

国内子会社ALH㈱において、2018年7月に、業務拡大に対応し増床を行い、建物63,634千円等総額83,167千円の設備投資を行っております。

また、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2018年8月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			有形固定資産			無形固定資産			合計
			建物	リース資産	その他	のれん	その他		
本社 東京テストセンター (東京都港区)	エンタープライズ エンターテインメント	本社機能 テストセン ター	134,632	76,154	52,414	-	156,602	419,803	610 〔269〕
札幌テストセンター (北海道札幌市中央区)		テストセン ター	6,148	-	2,655	-	-	8,803	19 〔162〕
福岡テストセンター (福岡県福岡市中央区)		テストセン ター	3,858	-	1,650	-	-	5,509	16 〔44〕
大阪テストセンター (大阪府大阪市北区)		テストセン ター	6,353	-	4,373	-	-	10,727	6 〔16〕

(2) 国内子会社

2018年8月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
				有形固定資産			無形固定資産			合計
				建物	リース資産	その他	のれん	その他		
ALH㈱	本社 (東京都 目黒区)	エンタープライズ	本社機能	63,033	-	18,273	6,468	-	87,775	464 〔34〕

(3) 在外子会社

2018年8月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
				有形固定資産			無形固定資産			合計
				建物	リース資産	その他	のれん	その他		
SHIFT ASIA CO., LTD.	ベトナム社 会主義共和 国ホーチミ ン市	エンタープライズ	本社機能 テストセン ター	3,835	-	9,447	-	-	13,283	110 〔3〕

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)を記載しております。
4. 帳簿価額のうち、有形固定資産の「その他」は主に工具、器具及び備品、無形固定資産の「その他」は主に、ソフトウェアの合計額であります。
5. 各事業所の建物は賃借物件であり、年間賃借料(契約金額)はそれぞれ、提出会社187,094千円、国内子会社75,943千円、在外子会社30,077千円であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2018年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (2018年11月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,542,000	14,585,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株でありま す。
計	14,542,000	14,585,000		

(注) 提出日現在発行数には、2018年11月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

a. 第1回新株予約権

決議年月日	2011年1月15日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 1 当社従業員 9 社外協力者 2
新株予約権の数(個)	2,000 (注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 1,000,000 (注)1、4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	10 (注)2、4
新株予約権の行使期間	自 2013年1月16日 至 2021年1月14日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 10 (注)4 資本組入額 5 (注)4
新株予約権の行使の条件	当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、株主総会の承認を受けなければならない。質入れその他処分することは、これを認めない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2018年10月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、500株であります。

ただし、新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち当該時点で行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合及び、時価を下回る価額を新株1株の発行価額とする当社普通株式の新株予約権又は新株予約権を付与された証券を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。

合併(当社が消滅する場合に限る) 合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
吸収分割 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社

新設分割 新設分割により設立する株式会社

株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転 株式移転により設立する株式会社

4. 当社は、2014年7月8日付で普通株式1株を100株の株式分割を、また2015年2月1日付で普通株式1株を5株にする株式分割を行っており、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

b. 第3回新株予約権

決議年月日	2013年3月21日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社従業員 20 社外協力者 1
新株予約権の数(個)	25 [20] (注) 1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 12,500 [10,000] (注) 1、4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	200 (注) 2、4
新株予約権の行使期間	自 2015年4月1日 至 2023年3月20日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 200 (注) 4 資本組入額 100 (注) 4
新株予約権の行使の条件	当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、株主総会の承認を受けなければならない。質入れその他処分することは、これを認めない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2018年10月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1. 新株予約権 1個につき目的となる株式数は、500株であります。

ただし、新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち当該時点で行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果 1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1円未満の端数は、円位未満小数第 1位まで算出し、小数第 1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合及び、時価を下回る価額を新株 1株の発行価額とする当社普通株式の新株予約権又は新株予約権を付与された証券を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる 1円未満の端数、円位未満小数第 1位まで算出し、小数第 1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。

合併(当社が消滅する場合に限る) 合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
吸収分割 吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社

新設分割 新設分割により設立する株式会社

株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転 株式移転により設立する株式会社

4. 当社は、2014年7月8日付で普通株式 1株を100株の株式分割を、また2015年2月1日付で普通株式 1株を5株にする株式分割を行っており、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

c. 第4回新株予約権

決議年月日	2014年7月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社従業員 105
新株予約権の数(個)	232 [151] (注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 116,000 [75,500] (注)1、4
新株予約権の行使時の払込金額(円)	300 (注)2、4
新株予約権の行使期間	自 2016年8月1日 至 2024年7月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 300 (注)4 資本組入額 150 (注)4
新株予約権の行使の条件	当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、株主総会の承認を受けなければならない。質入れその他処分することは、これを認めない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2018年10月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

- (注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、500株であります。
ただし、新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち当該時点で行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合及び、時価を下回る価額を新株1株の発行価額とする当社普通株式の新株予約権又は新株予約権を付与された証券を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を四捨五入する。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。
 合併(当社が消滅する場合に限る) 合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
 吸収分割 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社
 新設分割 新設分割により設立する株式会社
 株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
 株式移転 株式移転により設立する株式会社
4. 当社は、2015年2月1日付で普通株式1株を5株にする株式分割を行っており、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

d. 第5回新株予約権

決議年月日	2015年7月21日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 3 当社従業員 4
新株予約権の数(個)	2,400 (注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 240,000 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,201 (注)2
新株予約権の行使期間	自 2015年8月10日 至 2022年8月9日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,201 資本組入額 601
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、取締役会の承認を受けなければならない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2018年10月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

ただし、新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち当該時点で行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 新株予約権者は、2016年8月期から2018年8月期(以下、「対象期間」という。)までの監査済みの当社連結損益計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、損益計算書)の営業利益に、連結キャッシュ・フロー計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、キャッシュ・フロー計算書)に記載される減価償却費及びのれん償却額を加えたもの(以下、「EBITDA」という。)が、いずれかの期において下記各号に掲げる条件を満たした場合、満たした条件に応じて、割当てを受けた本新株予約権のうち当該条件に応じた割合を乗じた本新株予約権を行使することができる。この場合において、かかる割合に基づき算定される行使可能な本新株予約権の個数につき1個未満の端数が生ずる場合には、かかる端数を切り捨てた個数の本新株予約権についてのみ行使することができるものとする。また、国際財務報告基準の適用等により参照すべき営業利益等の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を取締役会にて定めるものとする。

(a) 対象期間におけるEBITDAが600百万円を超過している場合。

新株予約権者が割当てを受けた本新株予約権のうち10%

(b) 対象期間におけるEBITDAが700百万円を超過している場合。

新株予約権者が割当てを受けた本新株予約権のうち50%

(c) 対象期間におけるEBITDAが800百万円を超過している場合。

新株予約権者が割当てを受けた本新株予約権のうち100%

対象期間のいずれかの期において、EBITDAが300百万円を下回った場合には、上記に基づいて既に行使可能となっている新株予約権を除き、それ以後、本新株予約権は行使できないものとする。

新株予約権者は、上記の条件の達成時において、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

4. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。

合併（当社が消滅する場合に限る） 合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社

吸収分割 吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社

新設分割 新設分割により設立する株式会社

株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転 株式移転により設立する株式会社

e. 第6回新株予約権

決議年月日	2016年11月30日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 1 当社従業員 6
新株予約権の数(個)	2,000(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 200,000 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,228 (注)2
新株予約権の行使期間	自 2018年12月1日 至 2023年12月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,228 資本組入額 614
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、取締役会の承認を受けなければならない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2018年10月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

ただし、新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち当該時点で行使又は消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は、円位未満小数第1位まで算出し、小数第1位を切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 新株予約権者は、2018年8月期から2019年8月期までの2事業年度のうちのいずれかの期において、EBITDAが1,500百万円を超過した場合に限り、本新株予約権を行使することができる。なお、上記におけるEBITDAの判定においては、当社の監査済みの連結損益計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、損益計算書)の営業利益に、連結キャッシュ・フロー計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、キャッシュ・フロー計算書)に記載される減価償却費及びのれん償却額を加えたものを参照するものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき指標の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を取締役会にて定めるものとする。

新株予約権者は、上記の条件の達成時において、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

4. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。

合併(当社が消滅する場合に限る) 合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
吸収分割 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社

新設分割 新設分割により設立する株式会社

株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転 株式移転により設立する株式会社

f.第7回新株予約権

決議年月日	2018年2月20日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社子会社従業員 11名
新株予約権の数(個)	220(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 22,000 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	4,430 (注)2
新株予約権の行使期間	自 2020年12月1日 至 2025年2月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 4,430 資本組入額 2,215
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得するには、取締役会の承認を受けなければならない。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

当事業年度の末日(2018年8月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(2018年10月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

- (注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。
ただし、新株予約権発行後、株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち当該時点で行使又は償却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は円位未満少数第1位を切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 新株予約権者は、2020年8月期から2021年8月期までの2事業年度のうちのいずれかの期において、EBITDAが3,000百万円を超過した場合に限り、本新株予約権を行使することができる。なお、上記におけるEBITDAの判定においては、当社の監査済みの連結損益計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、損益計算書の営業利益に、連結キャッシュ・フロー計算書(連結財務諸表を作成していない場合には、キャッシュ・フロー計算書)に記載される減価償却費及びのれん償却額を加えたものを参照するものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき指標の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を取締役に定めて定めるものとする。

新株予約権は、上記の条件の達成時において、当社または当社関係会社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

4. 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。
- 合併（当社が消滅する場合に限る）合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
 - 吸収分割 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社
 - 新設分割 新設分割により設立する株式会社
 - 株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
 - 株式移転 株式移転により設立する株式会社

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2014年7月8日 (注)1	2,488,464	2,513,600		452,950		437,950
2014年11月12日 (注)2	100,000	2,613,600	59,800	512,750	59,800	497,750
2014年12月12日 (注)3	78,000	2,691,600	46,644	559,394	46,644	544,394
2014年9月1日～ 2015年1月31日 (注)4	168,000	2,859,600	7,700	567,094	7,700	552,094
2015年2月1日 (注)5	11,438,400	14,298,000	-	567,094	-	552,094
2015年2月1日～ 2015年8月31日 (注)6	112,500	14,410,500	3,750	570,844	3,750	555,844
2015年9月1日～ 2016年8月31日 (注)6	56,000	14,466,500	4,025	574,869	4,025	559,869
2016年9月1日～ 2017年8月31日 (注)6	23,500	14,490,000	3,400	578,269	3,400	563,269
2017年9月1日～ 2018年8月31日 (注)6	52,000	14,542,000	7,425	585,694	7,425	570,694

- (注) 1. 株式分割(1:100)による増加であります。
 2. 有償一般募集(ブックビルディング方式)による増加であります。
 発行価格 1,300円
 引受価額 1,196円
 資本組入額 598円
 3. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による増加であります。
 発行価格 1,196円
 資本組入額 598円
 割当先 野村証券株式会社
 4. 新株予約権の行使による増加であります。
 5. 株式分割(1:5)による増加であります。
 6. 新株予約権の行使による増加であります。
 7. 2018年9月1日から2018年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が43,000株、資本金が6,325千円及び資本準備金が6,325千円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2018年8月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)		10	39	52	96	3	4,137	4,337	
所有株式数 (単元)		36,713	3,486	3,804	19,521	6	81,852	145,382	3,800
所有株式数 の割合(%)		25.25	2.40	2.62	13.43	0.00	56.30	100.00	

- (注) 1. 「金融機関」には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式786単元が含まれております。
 2. 自己株式160株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に60株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2018年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
丹下 大	東京都渋谷区	5,876,800	40.41
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,878,800	12.92
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	762,300	5.24
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS (東京都港区港南二丁目15番1号)	595,921	4.10
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	326,300	2.24
Draper Nexus Technology Partners, LP (国内連絡先 中垣徹二郎)	55 EAST 3RD AVE SAN MATEO ,CA (東京都千代田区丸の内一丁目5番1号)	261,600	1.80
野村信託銀行株式会社(投信 口)	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	253,000	1.74
資産管理サービス信託銀行株式 会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	247,800	1.70
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST(UK) LIMITED FOR SMT TRUSTEES (IRELAND) LIMITED FOR JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC (常任代理人 株式会社三井住友 銀行デットファイナンス営業 部)	BLOCK5, HARCOURT CENTRE HARCOURT ROAD, DUBLIN 2 (東京都千代田区丸の内一丁目3番2号)	243,700	1.68
株式会社ワークスアプリケー ションズ	東京都港区赤坂一丁目12番32号	167,000	1.15
シンプレクス株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目23番1号	167,000	1.15
計	-	10,780,221	74.13

(注) 所有株式数の割合は、自己株式160株を控除して計算しております。なお、当該自己株式には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式78,600株は含めておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2018年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,538,100	145,381	
単元未満株式	普通株式 3,800		
発行済株式総数	14,542,000		
総株主の議決権		145,381	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式78,600株(議決権786個)が含まれております。

【自己株式等】

2018年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
株式会社SHIFT	東京都港区麻布台 二丁目4番5号	100		100	0.00
計		100		100	0.00

(注) 1. 上記のほか、当社は、単元未満の自己株式60株を保有しております。
2. 「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式78,600株は、上記には含めておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

株式付与ESOP信託

当社は、当社グループ従業員（以下、「従業員」という。）に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っています。

1. 株式付与ESOP信託の概要

当社は、従業員の当社の業績や株価への意識を高めることにより、業績向上を目指した業務遂行を一層促進するとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、株式付与ESOP信託を導入しております。

当社が従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定し、当該信託は、予め定める株式交付規程に基づき、従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、株式市場から予め定める取得期間中に取得します。その後、当該信託は株式交付規程に従い、信託期間中の従業員の業績貢献やビジネスプラン達成度に応じて、当社株式を在職時に無償で従業員に交付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

当該信託の導入により、従業員は当社株式の株価上昇による経済的な利益を収受することができるため、株価を意識した従業員の業務遂行を促すとともに、従業員の勤労意欲を高める効果が期待できます。また、当該信託の信託財産に属する当社株式に係る議決権行使は、受益者候補である従業員の意思が反映される仕組みであり、従業員の経営参画を促す企業価値向上プランとして有効です。

信託契約の内容

信託の種類	特定単独運用の金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
信託の目的	受益者要件を充足する従業員に対するインセンティブ付与
委託者	当社
受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社 （共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
受益者	従業員のうち受益者要件を充足する者
信託管理人	当社と利害関係のない第三者
信託契約日	2016年1月15日
信託の期間	2016年1月15日～2021年2月28日
制度開始日	2016年1月15日
議決権行使	受託者は、受益者候補の議決権行使状況を反映した信託管理人の指図に従い、当社株式の議決権を行使します。
取得株式の種類	当社普通株式
取得株式の総額	59,986千円
株式の取得日	2016年1月18日～2016年1月26日
株式の取得方法	取引所市場より取得

2. 従業員に取得させる予定の株式の総数

78,600株

3. 当該信託による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

従業員のうち受益者要件を充足する者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	160		160	

- (注) 1. 当事業年度における保有自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式78,600株(議決権786個)は含まれておりません。
2. 当期間における保有自己株式には、2018年11月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、財務体質の強化と事業拡大のための内部留保の充実等を図ることが重要であると考え、過去において配当を行っていませんが、株主に対する利益還元も経営の重要課題であると認識しております。

今後の配当政策の基本方針としましては、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案した上で、株主に対して安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。内部留保資金につきましては、事業拡大を目的とした中長期的な事業原資として利用していく予定であります。

なお、剰余金の配当を行う場合、年1回の期末配当を基本方針としており、配当の決定機関は株主総会となっております。また、当社は中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2014年8月	2015年8月	2016年8月	2017年8月	2018年8月
最高(円)	-	10,400 1,466	1,565	1,493	5,890
最低(円)	-	4,475 823	640	917	1,329

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場における株価を記載しております。
2. 当社株式は、2014年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。
3. 印は、株式分割(2015年2月1日、1株 5株)による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年3月	4月	5月	6月	7月	8月
最高(円)	5,670	5,890	5,270	5,500	5,330	4,940
最低(円)	4,495	3,990	4,495	4,685	4,515	3,930

- (注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場における株価を記載しております。

5 【役員 の 状 況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		丹下 大	1974年 9月22日生	2000年4月 株式会社インクス 入社 2005年9月 当社設立 代表取締役社長(現任) 2012年4月 SHIFT INDIA PRIVATE LIMITED Director 2012年9月 SHIFT GLOBAL PTE LTD Director (現任) 2017年3月 ALH株式会社 取締役(現任)	(注)3	5,876,800
取締役 副社長		松尾 茂	1963年 8月18日生	1987年4月 富士通株式会社 入社 1999年4月 Fujitsu Thailand Co., Ltd. 出向(財務 責任者) 2004年9月 富士通株式会社 経理部 担当部長 2004年10月 同社 電子デバイス事業本部 第二経理部 長 2008年3月 富士通マイクロエレクトロニクス株式 社 出向 2011年1月 富士通株式会社 財務経理本部 ディレク ター 2012年10月 同社 財務経理本部 シニアディレクター 2014年7月 日本電産株式会社 入社 CFO戦略室部長 2014年10月 同社 CFO戦略室長 2015年5月 同社 汎用モーター事業本部CFO 2016年7月 同社 GMS事業部CFO 兼 管理統括部長 2017年3月 当社入社 取締役副社長(現任) 2017年10月 SHIFT GLOBAL PTE LTD Director (現任)	(注)3	
取締役		小林 元也	1979年 2月13日生	2003年4月 株式会社インクス 入社 2007年4月 当社入社 2009年11月 当社ソフトウェアテスト事業部長 2012年4月 SHIFT INDIA PRIVATE LIMITED Director 2013年5月 当社 執行役員 2014年11月 当社 取締役(現任) 2017年11月 ALH株式会社 取締役 2017年8月 株式会社メソドロジック 取締役(現任) 2017年11月 株式会社SHIFT SECURITY 取締役(現任) 2018年5月 Airitech株式会社 取締役(現任)	(注)3	111,500
取締役		中垣 徹二郎	1973年 2月2日生	1996年4月 日本アジア投資株式会社 入社 2011年4月 同社 投資本部長 2011年4月 DFJ JAIC Venture Partners, LLC (現: Draper Nexus Venture Partners, LLC) 設立 Managing Director (現任) 2013年3月 DJパートナーズ株式会社設立 代表取締役 (現任) 2013年12月 株式会社trippiece 取締役(現任) 2014年5月 株式会社STUDIOUS(現株式会社TOKYO BASE) 取締役(現任) 2014年9月 株式会社イノーバ 取締役(現任) 2014年10月 Draper Nexus Venture Partners ,LLC Managing Director (現任) 2014年11月 当社 取締役(現任) 2016年9月 株式会社UNCOVER TRUTH 取締役(現任) 2018年4月 株式会社favy 取締役(現任)	(注)3	
取締役		佐々木 道夫	1957年 3月7日生	1982年3月 リード電気株式会社(現 株式会社キーエン ス) 入社 1999年6月 同社 取締役APSULT事業部長兼事業推進部長 2000年12月 同社 代表取締役社長 2010年12月 同社 取締役特別顧問 2017年5月 株式会社瑞光 社外取締役(現任) 2018年6月 東京エレクトロン株式会社 社外取締役 (現任) 2018年11月 当社 取締役(現任)	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		知識 賢治	1963年 1月27日生	1985年4月 鐘紡株式会社 入社 1998年4月 株式会社リサージ 代表取締役 2004年5月 株式会社カネボウ化粧品 取締役兼代表執行 役社長・最高執行責任者(COO) 2006年1月 同社 代表取締役社長執行役員 2010年6月 株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 代表取締役社長 2015年10月 日本交通株式会社 代表取締役社長 (現任) 2018年11月 当社 取締役(現任)	(注)3	
取締役		福田 譲	1975年 1月30日生	1997年4月 SAPジャパン株式会社 入社 2002年1月 同社 プロセス産業営業本部 第二営業部 部長 2004年8月 同社 流通・サービス産業営業本部 第一営 業部 部長 2007年1月 同社 バイスプレジデント ビジネスプロセスプラットフォーム本部長 2012年1月 同社 バイスプレジデント 第二営業統括本部長 2014年7月 同社 代表取締役社長(現任) 2018年11月 当社 取締役(現任)	(注)3	
常勤監査役		三浦 進	1949年 7月10日生	1972年4月 日商岩井株式会社(現双日株式会社) 入社 1999年4月 インフォコム株式会社 入社 2003年10月 インフォバック株式会社(現GRANDIT株式 社)代表取締役 2006年6月 インフォコム株式会社 取締役 2008年6月 同社 監査役 2012年11月 当社 監査役(現任)	(注)4	
監査役 (非常勤)		木呂子 義之	1966年 6月13日生	1990年4月 株式会社太陽神戸三井銀行(現株式会社三井 住友銀行)入行 2004年10月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 2012年11月 当社 監査役(現任) 2016年9月 株式会社デュアルトップ 社外取締役(監査 等委員)(現任)	(注)4	800
監査役 (非常勤)		松井 勝之	1955年 6月22日生	1980年4月 本田技研工業株式会社 入社 1991年7月 同社 Montesa Honda,S.A. 管理部長 1996年7月 本田技研工業株式会社 部品事業本部 事業 管理課長 2002年6月 同社 経理部税務室ブロックリーダー 2005年7月 同社 Honda Canada Inc. ヴァイス・プレジデント 2010年6月 株式会社ケーヒン 常勤監査役 2017年11月 当社 監査役(現任)	(注)4	
						5,989,100

- (注) 1. 取締役中垣 徹二郎、佐々木 道夫、知識 賢治、福田 譲は、社外取締役であります。
2. 監査役三浦 進、木呂子 義之及び松井 勝之は、社外監査役であります。
3. 2018年11月27日開催の定時株主総会終結の時から、2019年8月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
4. 2017年11月24日開催の定時株主総会終結の時から、2021年8月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
5. 当社は、法令に定める監査役員の数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりです。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
木村 稔	1974年 9月15日生	2003年10月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入 所 2007年5月 公認会計士登録 2010年10月 中小企業診断士登録 2012年1月 木村稔会計事務所設立 代表就任(現任) 2015年1月 株式会社マネジメントソリューションズ 監査役就任 (現任) 2015年6月 株式会社ニッコウトラベル 取締役就任(現任) 2016年3月 OATアグリオ株式会社 監査役就任 2018年3月 OATアグリオ株式会社 取締役就任(現任)	-

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主重視の基本方針に基づき、継続企業として収益を拡大し企業価値を高めるために、経営管理体制を整備し、経営の効率と迅速性を高めてまいります。同時に、社会における企業の責務を認識し、事業活動を通じた社会への貢献並びに、株主様、お取引様及び従業員といった当社に関係する各位の調和ある利益の実現に取り組んでまいります。これを踏まえ、経営管理体制の整備に当たっては事業活動における透明性及び客観性を確保すべく、業務執行に対する監視体制の整備を進め、適時適切な情報公開を行ってまいります。

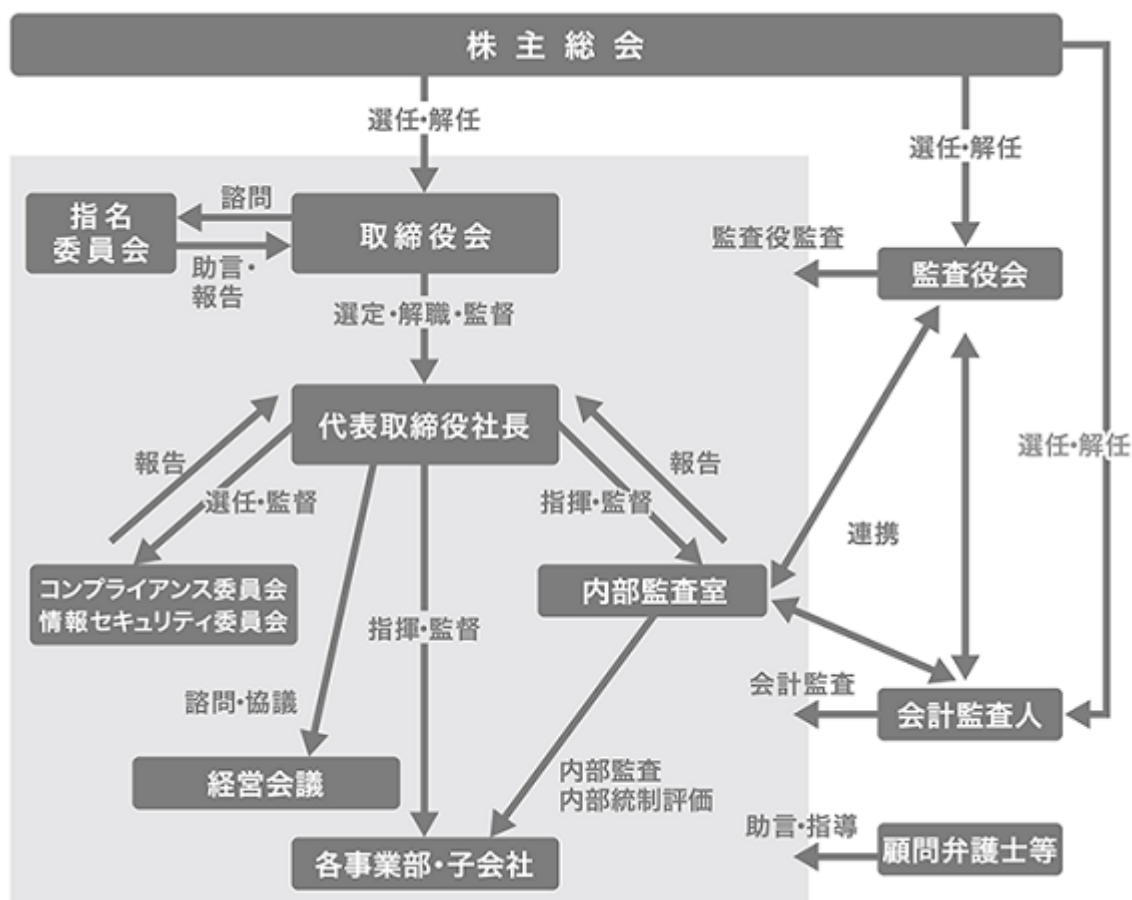
企業統治の体制

a. 企業統治の体制の概要

当社は会社法に基づき、監査役会、取締役会及び会計監査人を設置しており、本書提出日現在、取締役会は7名(うち社外取締役4名)で構成されています。また、監査役会は3名(うち社外監査役3名)の監査役で構成されています。取締役会は原則毎月1回開催するほか必要に応じて機動的に開催し、経営上の最高意思決定機関として、法令及び定款に定められた事項並びに重要な政策に関する事項を決議し、それに基づいた業務執行状況を監督しております。また、当社は、常勤取締役、常勤監査役が出席する経営会議を原則毎週1回開催し、経営上の重要事項に対する十分な議論と迅速な意思決定を行う体制をとっております。経営会議は、取締役会で決定された戦略・方針に基づき、その業務執行の進捗状況等について議論し、意思決定を行っております。

加えて、当社では経営の健全性とコーポレート・ガバナンスの観点から指名委員会を任意の機関として設置しており、取締役3名(うち社外取締役1名)、及び社外監査役2名で構成されています。指名委員会は取締役会の諮問機関として社外取締役の選任及び解任に関する事項について報告・助言を行います。

b. 会社の機関・内部統制の関係を示す図表



c. 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法に定める「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして、法務省令で定める体制の整備」に関して、当社で定める内部統制システムの基本方針に従って体制を構築しております。

d. リスク管理体制の整備の状況

当社は、コンプライアンスの取扱いを定め、当社におけるコンプライアンスの徹底と社会的な信用の向上を図ることを目的としてコンプライアンス規程を制定しております。また、当社では、法務、税務、労務等に係る外部の専門家と顧問契約を締結しており、日頃から指導や助言を得る体制を整備しております。

e. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の業務の適正を確保するため、取締役等の子会社への派遣、規程等に基づいた業務遂行のための子会社との日常的な情報の共有、子会社の遵法体制その他業務の適正を確保するための体制の整備に関する指導及び支援を行い、当社グループ全体を網羅的・統括的に管理する体制を整備しております。

内部監査及び監査役監査の状況

a. 内部監査

当社は内部監査室を設け、代表取締役直轄の独立した組織として、内部監査室長が自己の属する部門を除く当社の全部門及び子会社を対象とした業務監査を実施し、代表取締役に対して監査結果を報告しております。

b. 監査役監査

当社の監査役会は、常勤監査役1名（社外監査役）と非常勤監査役2名（いずれも社外監査役）で構成されております。各監査役は独立して監査を行い、原則毎月一回の監査役会において、情報共有を図っております。監査役監査は毎期策定される監査計画書に基づき、取締役会を含む重要な会議への出席、実地監査、意見聴取を行っております。

c. 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携

監査役監査は、内部監査と同質化しない限度において内部監査担当者と協力して共同監査を行うほか、年度監査計画を相互に聴取するとともに、重要な会議に出席することによって、定期的な情報交換を行っております。

会計監査との関係については、会計監査人である有限責任監査法人トーマツを選任しており、常に正確な経営情報を提供し、公正不偏な監査ができる環境を整備しております。具体的には監査役と会計監査人との間では、定期的な会合が開催されており、監査上の問題点の有無や今後の課題に関して意見の交換等が行われております。また、期末及び四半期ごとに実施される監査報告会については、監査役及び内部監査担当が同席することで情報の共有を図っております。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社は社外取締役を4名選任しております。このうち社外取締役である中垣徹二郎氏は、シリコンバレーに拠点を置くベンチャーキャピタルのManaging Partnerで、数多くのIT企業への出資と経営指導を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しており、今後当社が、国内外において成長していくにあたり、重要事項の決定及び業務執行の監督等に必要な知見と経験を有していると判断し選任しております。なお、同氏と当社の間には、特別の利害関係はありません。

社外取締役の知識賢治氏、佐々木道夫氏及び福田譲氏の3氏は、経営者として豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営全般を監督いただくことで、当社経営体制がさらに強化できると判断し選任しております。なお、3氏と当社の間には、特別の利害関係はありません。

当社は社外監査役を3名選任しております。このうち常勤監査役の三浦進氏は、IT業界や海外における長年の識見や、上場会社の取締役、監査役を歴任された経験を有し、高い独立性を備えております。社外監査役は、取締役会や週次で開催される社長を含む全取締役に社内主要部門の責任者を加えたメンバーで構成される経営会議等にも参加しており、取締役の意思決定及び業務執行の状況を日常的に監視できる体制にあるものと考えております。社外監査役3名と当社の間には、特別の利害関係はありません。

また、当社では社外取締役又は社外監査役の独立性に関する基準及び方針を定めております。選任に当たっては、当社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他利害関係を総合的に勘案し、社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できていることを個別に判断しております。なお、当社は、社外取締役の中垣徹二郎氏、知識賢治氏、佐々木道夫氏、福田謙氏、社外監査役の三浦進氏、木呂子義之氏、松井勝之氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

役員報酬の内容

a. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	98,004	98,004	-	-	4
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-
社外取締役	-	-	-	-	1
社外監査役	14,400	14,400	-	-	4

b. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

c. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、取締役の報酬については取締役会、監査役の報酬については監査役間の協議により決定しております。

株式の保有状況

a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 4銘柄
貸借対照表計上額の合計額 32,804千円

b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

c. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は城戸和弘氏及び後藤英俊氏であり有限責任監査法人トーマツに所属しております。また、監査業務に係る補助者の構成は公認会計士4名、その他9名であります。なお、継続監査年数が7年以内のため、年数の記載を省略しております。

なお、有限責任監査法人トーマツは、2018年11月27日の第13回定時株主総会終結の時をもって、任期満了により退任いたしました。新たな会計監査人として、EY新日本有限監査法人が同定時株主総会において選任されました。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき取締役会の決議によって、毎年2月28日（閏年においては2月29日）を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会の円滑な運営を図るためであります。

自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己株式を取得することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	18,000		40,000	
連結子会社				
計	18,000		40,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査計画、監査日数、当社の規模・業務の特性及び前事業年度の報酬等を勘案して、適切に決定する事としております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2017年9月1日から2018年8月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2017年9月1日から2018年8月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人や専門的情報を有する団体等が行うセミナーに参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,977,028	2,474,400
売掛金	1,272,701	1,802,923
たな卸資産	¹ 20,624	¹ 37,397
繰延税金資産	76,374	90,392
その他	66,882	112,773
貸倒引当金	7,627	10,971
流動資産合計	3,405,984	4,506,916
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	120,877	230,722
リース資産(純額)	30,956	77,716
その他(純額)	87,230	112,882
有形固定資産合計	² 239,064	² 421,321
無形固定資産		
のれん	730,315	649,275
その他	127,664	159,198
無形固定資産合計	857,980	808,474
投資その他の資産		
投資有価証券	376,438	33,304
繰延税金資産	19,498	25,308
長期預金	261,457	108,639
敷金及び保証金	166,594	324,544
その他	³ 3,769	³ 56,388
投資その他の資産合計	827,757	548,185
固定資産合計	1,924,802	1,777,981
資産合計	5,330,786	6,284,898
負債の部		
流動負債		
買掛金	225,570	291,754
1年内返済予定の長期借入金	342,883	350,647
未払費用	445,050	641,582
未払法人税等	123,167	341,775
賞与引当金	44,509	42,988
その他	320,790	709,066
流動負債合計	1,501,972	2,377,815
固定負債		
長期借入金	1,654,459	1,303,812
その他	56,602	96,836
固定負債合計	1,711,061	1,400,649
負債合計	3,213,034	3,778,464

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	578,269	585,694
資本剰余金	533,081	540,506
利益剰余金	875,720	1,243,959
自己株式	60,175	60,175
株主資本合計	1,926,895	2,309,984
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,700	5,570
その他の包括利益累計額合計	2,700	5,570
新株予約権	2,540	2,562
非支配株主持分	191,017	199,457
純資産合計	2,117,752	2,506,433
負債純資産合計	5,330,786	6,284,898

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月 31日)	当連結会計年度 (自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月 31日)
売上高	8,174,062	12,792,680
売上原価	5,894,917	8,900,938
売上総利益	2,279,144	3,891,742
販売費及び一般管理費	1、2 1,887,665	1、2 2,690,839
営業利益	391,479	1,200,902
営業外収益		
受取利息	340	449
為替差益	6,674	3,970
助成金収入	41,727	38,192
保険解約返戻金	5,732	-
その他	2,787	2,796
営業外収益合計	57,261	45,408
営業外費用		
支払利息	6,253	6,984
その他	1,845	815
営業外費用合計	8,099	7,799
経常利益	440,641	1,238,510
特別利益		
新株予約権戻入益	525	-
特別利益合計	525	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	3 403,613
特別損失合計	-	403,613
税金等調整前当期純利益	441,166	834,897
法人税、住民税及び事業税	165,456	408,029
法人税等調整額	15,299	10,505
法人税等合計	180,755	397,523
当期純利益	260,411	437,373
非支配株主に帰属する当期純利益	51,718	69,133
親会社株主に帰属する当期純利益	208,692	368,239

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月31日)
当期純利益	260,411	437,373
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	508	2,869
その他の包括利益合計	1 508	1 2,869
包括利益	259,902	434,503
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	208,183	365,369
非支配株主に係る包括利益	51,718	69,133

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	574,869	559,869	667,027	60,032	1,741,733
当期変動額					
新株の発行	3,400	3,400			6,800
親会社株主に帰属する当期純利益			208,692		208,692
自己株式の取得				143	143
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		30,187			30,187
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	3,400	26,787	208,692	143	185,161
当期末残高	578,269	533,081	875,720	60,175	1,926,895

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	2,191	2,191	1,800	86,736	1,828,078
当期変動額					
新株の発行					6,800
親会社株主に帰属する当期純利益					208,692
自己株式の取得					143
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					30,187
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	508	508	740	104,280	104,511
当期変動額合計	508	508	740	104,280	289,673
当期末残高	2,700	2,700	2,540	191,017	2,117,752

当連結会計年度(自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	578,269	533,081	875,720	60,175	1,926,895
当期変動額					
新株の発行	7,425	7,425			14,850
親会社株主に帰属する当期純利益			368,239		368,239
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	7,425	7,425	368,239	-	383,089
当期末残高	585,694	540,506	1,243,959	60,175	2,309,984

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	2,700	2,700	2,540	191,017	2,117,752
当期変動額					
新株の発行					14,850
親会社株主に帰属する当期純利益					368,239
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,869	2,869	22	8,440	5,592
当期変動額合計	2,869	2,869	22	8,440	388,681
当期末残高	5,570	5,570	2,562	199,457	2,506,433

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月 31日)	当連結会計年度 (自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	441,166	834,897
減価償却費	104,050	127,822
のれん償却額	68,226	83,743
貸倒引当金の増減額(は減少)	40	3,541
賞与引当金の増減額(は減少)	5,064	2,171
受取利息及び受取配当金	1,105	571
支払利息	6,253	6,984
為替差損益(は益)	10,462	4,957
投資有価証券評価損益(は益)	-	403,613
売上債権の増減額(は増加)	73,538	552,928
たな卸資産の増減額(は増加)	22,907	16,772
前払費用の増減額(は増加)	6,304	39,449
仕入債務の増減額(は減少)	32,665	62,492
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	51,968	361,830
その他	60,267	212,000
小計	625,740	1,480,074
利息及び配当金の受取額	1,105	571
利息の支払額	6,253	6,984
法人税等の支払額	226,351	226,148
営業活動によるキャッシュ・フロー	394,241	1,247,514
投資活動によるキャッシュ・フロー		
長期預金の預入による支出	250,000	-
長期預金の払戻による収入	-	150,000
有形固定資産の取得による支出	84,077	130,908
無形固定資産の取得による支出	53,448	70,099
投資有価証券の取得による支出	360,463	60,480
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 547,084	1,829
敷金の差入による支出	15,197	173,680
敷金の回収による収入	635	1,319
その他	54,170	13,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,255,466	272,130
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,400,000	-
長期借入金の返済による支出	204,761	342,883
株式の発行による収入	6,800	14,850
自己株式の取得による支出	143	-
非支配株主からの払込みによる収入	7,070	-
その他	13,383	27,841
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,195,581	355,875
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,016	2,218
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	341,372	621,726
現金及び現金同等物の期首残高	1,635,655	1,977,028
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	124,354
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,977,028	1 2,474,400

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

全ての子会社を連結しております。

(1) 連結子会社の数 13社

(2) 主要な連結子会社の名称

SHIFT INDIA PRIVATE LIMITED

SHIFT GLOBAL PTE LTD

SHIFT ASIA CO., LTD.

株式会社 SHIFT SECURITY

株式会社メソドロジック

ALH株式会社

Airitech株式会社

2018年4月2日付でAiritech株式会社の株式を新たに取得したため、第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。なお、2018年4月1日をみなし取得日としているため、同社の2018年4月1日以降の損益計算書を連結しております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数 1社

株式会社SHIFT PLUSは当連結会計年度より、当社の連結子会社から持分法適用関連会社に変更しております。

持分法を適用していない関連会社(株式会社アイ・イー・テック)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、ALH株式会社他9社については決算日が連結決算日と異なりますが、連結財務諸表の作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、その他の連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(a)仕掛品 個別法

(b)貯蔵品 最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3~5年)に基づき定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) 重要な外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

10年間の定額法により償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許資金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっています。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号 平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年8月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「有形固定資産」の「その他」に含めていた「リース資産」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「有形固定資産」の「その他(純額)」に表示していた118,187千円は「リース資産(純額)」30,956千円、「その他(純額)」87,230千円として組み替えております。

(追加情報)

(株式付与ESOP信託)

当社は、当社グループ従業員(以下、「従業員」という。)に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

1 取引の概要

当社は、従業員の当社の業績や株価への意識を高めることにより、業績向上を目指した業務遂行を一層促進するとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、株式付与ESOP信託を導入しております。

当社が従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定し、当該信託は、予め定める株式交付規程に基づき、従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、株式市場から予め定める取得期間中に取得します。その後、当該信託は株式交付規程に従い、信託期間中の従業員の業績貢献やビジネスプラン達成度に応じて、当社株式を在職時に無償で従業員に交付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

当該信託の導入により、従業員は当社株式の株価上昇による経済的な利益を収受することができるため、株価を意識した従業員の業務遂行を促すとともに、従業員の勤労意欲を高める効果が期待できます。また、当該信託の信託財産に属する当社株式に係る議決権行使は、受益者候補である従業員の意思が反映される仕組みであり、従業員の経営参画を促す企業価値向上プランとして有効です。

2 信託に残存する自社の株式

信託に残存する自社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末59,986千円、78,600株、当連結会計年度末で59,986千円、78,600株であります。

(連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
商品及び製品	796千円	千円
仕掛品	19,682 "	36,756 "
貯蔵品	145 "	640 "
計	20,624千円	37,397千円

2 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	209,922千円	290,611千円

3 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
投資その他の資産(その他)	3,400千円	56,134千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
給料及び手当	717,512千円	910,726千円
役員報酬	145,069 "	175,394 "
採用費	313,407 "	591,854 "
のれん償却額	68,226 "	83,743 "

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
	1,654千円	千円

3 投資有価証券評価損

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

当社が保有する「その他有価証券」に区分される有価証券のうち実質価額が著しく下落したものについて、減損処理を実施したものであります。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
為替換算調整勘定		
当期発生額	508	2,869
組替調整額		
税効果調整前	508	2,869
税効果額		
為替換算調整勘定	508	2,869
その他の包括利益合計	508	2,869

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	14,466,500	23,500		14,490,000
自己株式				
普通株式(株)	78,646	114		78,760

(注) 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式がそれぞれ78,600株含まれております。

(変動事由の概要)

普通株式の発行済株式の増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による増加 23,500株

普通株式の自己株式の増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 114株

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての第5回新株予約権					1,440	
	ストック・オプションとしての第6回新株予約権(注)					1,100	
合計						2,540	

(注) スtock・オプションとしての第6回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	14,490,000	52,000		14,542,000
自己株式				
普通株式(株)	78,760			78,760

(注) 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式がそれぞれ78,600株含まれております。

(変動事由の概要)

普通株式の発行済株式の増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による増加 52,000株

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての第5回新株予約権					1,440	
	ストック・オプションとしての第6回新株予約権(注)					1,100	
	ストック・オプションとしての第7回新株予約権(注)					22	
合計						2,562	

(注) スtock・オプションとしての第6回及び第7回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月 31日)	当連結会計年度 (自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月 31日)
現金及び預金	1,977,028千円	2,474,400千円
預入期間が3か月を超える定期預金	- "	- "
現金及び現金同等物	1,977,028千円	2,474,400千円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月 31日)

株式の取得により新たに株式会社メソドロジック及びバリストライドグループ株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式取得価額と株式取得のための支出(純額)との関係は、次のとおりであります。

流動資産	769,152千円
固定資産	70,857 "
のれん	583,525 "
流動負債	459,541 "
固定負債	97,583 "
非支配株主持分	15,304 "
株式の取得価額	851,106 "
現金及び現金同等物	304,021 "
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	547,084千円

当連結会計年度(自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月 31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、本社及びテストセンターにおける事務機器等であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年 8月 31日)	当連結会計年度 (2018年 8月 31日)
1年内	55,831千円	127,954千円
1年超	32,568 "	396,635千円
合計	88,399千円	524,589千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、投資計画に照らして、必要な資金を主に借入金等により調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。なお、デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握しております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、投資先の業績変動リスクに晒されておりますが、投資先の業績については定期的に報告を受け、その内容を把握し、モニタリングしております。

長期預金は、金融機関の信用リスクに晒されておりますが、金融機関の信用性を適宜把握しております。

敷金及び保証金は、賃貸借契約に伴うものであり、差入先の信用リスクに晒されておりますが、賃貸借契約締結に際し差入先の信用状況を確認するとともに、差入先ごとの残高管理を行っております。

営業債務である買掛金、未払費用、未払法人税等は、1年以内の支払期日となっております。営業債務は流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクにつきましては、月次単位での支払予定を把握するなどの方法により、当該リスクを管理しております。

長期借入金は設備投資・運転資金を目的としたものであり、金利変動リスクに晒されておりますが、金利動向を随時把握し、適切に管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください)。

前連結会計年度(2017年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,977,028	1,977,028	-
(2) 売掛金(1)	1,265,074	1,265,074	-
(3) 長期預金	261,457	261,563	106
(4) 敷金及び保証金	166,594	165,114	1,480
資産計	3,670,154	3,668,780	1,373
(5) 買掛金	225,570	225,570	-
(6) 未払費用	445,050	445,050	-
(7) 未払法人税等	123,167	123,167	-
(8) 長期借入金(2)	1,997,343	1,997,971	627
負債計	2,791,131	2,791,759	627

(1) 売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

(2) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

当連結会計年度(2018年8月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,474,400	2,474,400	-
(2) 売掛金(1)	1,791,952	1,791,952	-
(3) 長期預金	108,639	108,682	42
(4) 敷金及び保証金	324,544	318,272	6,271
資産計	4,699,538	4,693,308	6,229
(5) 買掛金	291,754	291,754	-
(6) 未払費用	641,582	641,582	-
(7) 未払法人税等	341,775	341,775	-
(8) 長期借入金(2)	1,654,459	1,656,373	1,913
負債計	2,929,573	2,931,486	1,913

- (1) 売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。
(2) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)長期預金、(4)敷金及び保証金

これらの時価は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(5)買掛金、(6)未払費用、(7)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(8)長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
投資有価証券	376,438	33,304

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

当連結会計年度において、投資有価証券(非上場株式)について403,613千円の減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2017年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,977,028	-	-	-
売掛金	1,265,074	-	-	-
長期預金	2,619	258,837	-	-
合計	3,244,722	258,837	-	-

当連結会計年度(2018年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,474,400	-	-	-
売掛金	1,791,952	-	-	-
長期預金	3,343	105,296	-	-
合計	4,269,697	105,296	-	-

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2017年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	342,883	350,647	332,152	171,460	565,249	234,950
合計	342,883	350,647	332,152	171,460	565,249	234,950

当連結会計年度(2018年8月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	350,647	332,152	171,460	565,249	38,940	196,010
合計	350,647	332,152	171,460	565,249	38,940	196,010

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2017年8月31日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額376,438千円)については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当連結会計年度(2018年8月31日)

非上場株式(連結貸借対照表計上額33,304千円)については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

有価証券について403,613千円(その他有価証券の非上場株式403,613千円)減損処理を行っております。

なお、非上場株式の減損処理にあたりましては、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
確定拠出年金への掛金支払額	17,955千円	72,723千円

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
新株予約権戻入益	525千円	千円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

当社は2014年7月8日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また2015年2月1日付で普通株式1株につき5株の株式分割を行っておりますが、以下は、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名 当社従業員 9名 社外協力者 2名	当社従業員 20名 社外協力者 1名	当社従業員 105名
株式の種類及び付与数	普通株式 1,965,000株	普通株式 92,500株	普通株式 209,000株
付与日	2011年1月15日	2013年3月31日	2014年7月31日
権利確定条件	(注)	(注)	(注)
対象勤務期間	2011年1月15日～ 2013年1月15日	2013年3月31日～ 2015年3月31日	2014年7月31日～ 2016年7月31日
権利行使期間	2013年1月16日～ 2021年1月14日	2015年4月1日～ 2023年3月20日	2016年8月1日～ 2024年7月28日

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第7回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 3名 当社従業員 4名	当社取締役 1名 当社従業員 6名	当社子会社従業員 11名
株式の種類及び付与数	普通株式 420,000株	普通株式 230,000株	普通株式 22,000株
付与日	2015年8月10日	2016年12月28日	2018年3月7日
権利確定条件	(注)	(注)	(注)
対象勤務期間			
権利行使期間	2015年8月10日～ 2022年8月9日	2018年12月1日～ 2023年12月28日	2020年12月1日～ 2025年2月28日

(注) 権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役、従業員等として認定された者であることを要します。その他の権利行使条件等については、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2018年8月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第7回 新株予約権
権利確定前						
前連結会計年度末（株）				216,000	200,000	
付与（株）						22,000
失効（株）						
権利確定（株）				216,000		
未確定残（株）					200,000	22,000
権利確定後						
前連結会計年度末（株）	1,000,000	20,000	160,500	24,000		
権利確定（株）				216,000		
権利行使（株）		7,500	44,500			
失効（株）						
未行使残（株）	1,000,000	12,500	116,000	240,000		

単価情報

	第1回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権	第6回 新株予約権	第7回 新株予約権
権利行使価格（円）	10	200	300	1,201	1,228	4,430
行使時平均株価（円）		4,051	3,395			
付与日における公正な 評価単価（円）				6	5.5	1

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価方法 モンテカルロ・シミュレーション

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性	(注) 1	61.06%
予想残存期間	(注) 2	7年
予想配当	(注) 3	0円/株
無リスク利率	(注) 4	-0.041%

(注) 1. 満期までの期間（7年間）に応じた直近の期間で算定しております。

2. 割当日（2018年3月）より権利行使期間（2025年2月）の期間で見積っております。

3. 直近の配当実績によります。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

5. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみを反映させる方法を採用しております。

6. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額	5,459,780 千円
(2) 当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの 権利行使日における本源的価値の合計額	173,350 千円

(追加情報)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

前述の「3. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。なお、第5回、第6回及び第7回新株予約権が権利確定条件付き有償新株予約権となります。

2. 採用している会計処理の概要

(権利確定日以前の会計処理)

- (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。
- (2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対応する部分を利益として計上する。

(権利確定日後の会計処理)

- (3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対応する部分を払込資本に振り替える。
- (4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	7,652千円	21,280千円
貸倒引当金	2,415 "	2,571 "
未払地代家賃	2,581 "	5,635 "
未払費用	11,900 "	20,982 "
未払金	3,403 "	7,573 "
繰越欠損金	42,491 "	26,558 "
賞与引当金	13,303 "	11,965 "
その他	3,588 "	4,117 "
繰延税金資産(流動)小計	87,338千円	100,684千円
評価性引当額	10,963 "	10,292 "
計	76,374千円	90,392千円
繰延税金資産(固定)		
敷金及び保証金	8,962千円	11,428千円
未実現利益	2,471 "	2,707 "
投資有価証券評価損	7,577 "	131,163 "
減価償却超過額	6,537 "	5,448 "
未払地代家賃	- "	11,285 "
繰越欠損金	19,521 "	- "
その他	7,347 "	11,150 "
繰延税金資産(固定)小計	52,418千円	173,185千円
評価性引当額	22,864 "	147,876 "
計	29,553千円	25,308千円
繰延税金負債(固定)		
子会社株式評価益	10,055千円	10,132千円
計	10,055千円	10,132千円
繰延税金資産の純額	95,873千円	105,568千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2017年8月31日)	当連結会計年度 (2018年8月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1%	0.7%
住民税均等割等	1.7%	1.3%
のれん償却	4.8%	3.1%
税額控除	2.0%	3.1%
評価性引当額の増減	1.8%	13.7%
子会社取得関連費用の連結調整	1.8%	0.1%
その他	0.9%	0.9%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.0%	47.6%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「エンタープライズ市場」では、金融業、流通業、製造業、通信業、ウェブサービス業など社会基盤を支える企業における業務システムや情報システムにおいて、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供しております。

「エンターテインメント市場」では、モバイルゲーム、ソーシャルゲーム、コンシューマゲーム等を中心とした娯楽を提供する企業向けに、ソフトウェアの品質保証に関するサービス全般を提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益（のれん償却前）ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益、その他の項目に関する項目

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

(単位：千円)

	エンタープライズ市場	エンターテインメント市場	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	6,868,550	1,305,511	8,174,062	-	8,174,062
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	6,868,550	1,305,511	8,174,062	-	8,174,062
セグメント利益	1,374,413	337,092	1,711,505	1,320,026	391,479
その他の項目					
減価償却費	70,858	16,629	87,488	16,562	104,050

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,320,026千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 有形固定資産及び無形固定資産（のれんを除く）は、各報告セグメントに配分していないため、記載を省略しておりますが、減価償却費については合理的な基準に従い、各報告セグメントに配分しております。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

(単位：千円)

	エンタープライズ市場	エンターテインメント市場	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	11,276,603	1,516,076	12,792,680	-	12,792,680
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	11,276,603	1,516,076	12,792,680	-	12,792,680
セグメント利益	2,610,429	400,412	3,010,842	1,809,939	1,200,902
その他の項目					
減価償却費	89,167	13,457	102,625	25,197	127,822

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,809,939千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3.有形固定資産及び無形固定資産(のれんを除く)は、各報告セグメントに配分していないため、記載を省略しておりますが、減価償却費については合理的な基準に従い、各報告セグメントに配分しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

	ソフトウェアテスト関連				開発関連	運用保守 関連	その他	合計
	コンサルティ ングサービス	ソリューショ ンサービス	その他	小計				
外部顧客への 売上高	2,106,331	3,829,159	130,824	6,066,315	1,229,536	867,401	10,807	8,174,062

2.地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	合計
211,478	27,586	239,064

3.主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社ワークスアプリケーションズ	908,946	エンタープライズ市場

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	合計
405,353	15,967	421,321

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

	エンタープライズ市場	エンターテインメント市場	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	68,226	68,226
当期末残高	-	-	730,315	730,315

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

	エンタープライズ市場	エンターテインメント市場	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	83,743	83,743
当期末残高	-	-	649,275	649,275

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

重要な負ののれんの発生益はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

前連結会計年度(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
1株当たり純資産額	133円52銭	159円33銭
1株当たり当期純利益	14円49銭	25円49銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	13円41銭	23円61銭

- (注) 1. 「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式を、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(前連結会計年度78,600株、当連結会計年度78,600株)。
また、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前連結会計年度78,600株、当連結会計年度78,600株)。
2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当連結会計年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	208,692	368,239
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	208,692	368,239
普通株式の期中平均株式数(株)	14,404,813	14,444,208
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	1,154,941	1,150,767
(うち新株予約権(株))	(1,154,941)	(1,150,767)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	第5回新株予約権 2,160個(216,000株) 第6回新株予約権 2,000個(200,000株)	第6回新株予約権 2,000個(200,000株) 第7回新株予約権 220個(22,000株)

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2017年8月31日)	当連結会計年度末 (2018年8月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,117,752	2,506,433
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	193,557	202,019
(うち新株予約権(千円))	(2,540)	(2,562)
(うち非支配株主持分(千円))	(191,017)	(199,457)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,924,194	2,304,414
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	14,411,240	14,463,240

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
ALH株式会社	無担保私募 普通社債	2014年3月	12,000	6,000 (6,000)	0.57	なし	2019年 3月31日
合計			12,000	6,000 (6,000)			

(注) 1. ()内書は、1年内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額は、以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
6,000				

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	342,883	350,647	0.44	
1年以内に返済予定のリース債務	13,697	36,241	2.29	
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く)	1,654,459	1,303,812	0.30	2020年2月29日～ 2027年2月20日
リース債務(1年以内に返済予定 のものを除く)	24,192	50,712	1.44	2020年1月31日～ 2021年12月31日
その他有利子負債				
合計	2,035,233	1,741,413		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	332,152	171,460	565,249	38,940
リース債務	33,877	16,710	124	

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,657,642	5,800,943	9,253,404	12,792,680
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	264,194	562,572	932,189	834,897
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	163,417	340,235	567,110	368,239
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	11.34	23.58	39.28	25.49

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損 失 (円)	11.34	12.24	15.69	13.75

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2017年8月31日)	当事業年度 (2018年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,081,026	1,585,000
売掛金	2 838,966	1,361,059
たな卸資産	1 13,154	1 27,616
前払費用	33,003	59,409
繰延税金資産	22,548	51,433
関係会社短期貸付金	242,441	65,000
その他	2 19,441	2 17,435
貸倒引当金	5,247	8,397
流動資産合計	2,245,336	3,158,557
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	108,157	151,674
工具、器具及び備品（純額）	64,098	62,107
リース資産（純額）	21,306	76,154
その他（純額）		899
有形固定資産合計	193,562	290,835
無形固定資産		
ソフトウェア	125,983	156,474
その他	8,734	8,621
無形固定資産合計	134,717	165,095
投資その他の資産		
投資有価証券	375,938	32,804
関係会社株式	1,207,485	1,225,085
関係会社長期貸付金		54,974
繰延税金資産	7,560	21,425
長期預金	261,457	108,639
敷金及び保証金	129,751	238,185
その他	5	5
投資その他の資産合計	1,982,197	1,681,120
固定資産合計	2,310,478	2,137,051
資産合計	4,555,814	5,295,608
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 138,662	2 207,122
1年内返済予定の長期借入金	293,490	314,772
未払金	2 84,915	2 225,933
未払費用	310,933	503,208
未払法人税等	51,698	277,918
未払消費税等	86,611	215,859
その他	2 45,287	2 97,199
流動負債合計	1,011,598	1,842,013
固定負債		
長期借入金	1,586,611	1,271,839
その他	41,321	85,142
固定負債合計	1,627,932	1,356,981
負債合計	2,639,531	3,198,995

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年8月31日)	当事業年度 (2018年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	578,269	585,694
資本剰余金		
資本準備金	563,269	570,694
資本剰余金合計	563,269	570,694
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	832,380	997,839
利益剰余金合計	832,380	997,839
自己株式	60,175	60,175
株主資本合計	1,913,742	2,094,051
新株予約権	2,540	2,562
純資産合計	1,916,282	2,096,613
負債純資産合計	4,555,814	5,295,608

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月 31日)	当事業年度 (自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月 31日)
売上高	1 5,497,499	1 9,602,879
売上原価	1 3,987,423	1 6,848,253
売上総利益	1,510,076	2,754,626
販売費及び一般管理費	1、 2 1,320,364	1、 2 1,944,100
営業利益	189,711	810,525
営業外収益		
受取利息	1 2,247	1 2,214
受取配当金	752	111
為替差益	3,224	900
助成金収入	-	4,872
その他	574	1,291
営業外収益合計	6,799	9,390
営業外費用		
支払利息	4,030	5,650
営業外費用合計	4,030	5,650
経常利益	192,480	814,264
特別利益		
新株予約権戻入益	525	-
特別利益合計	525	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	403,613
特別損失合計	-	403,613
税引前当期純利益	193,005	410,651
法人税、住民税及び事業税	62,250	287,942
法人税等調整額	6,058	42,749
法人税等合計	68,309	245,192
当期純利益	124,695	165,458

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2016年 9月 1日 至 2017年 8月31日)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	574,869	559,869	559,869	707,685	707,685	60,032	1,782,391
当期変動額							
新株の発行	3,400	3,400	3,400				6,800
当期純利益				124,695	124,695		124,695
自己株式の取得						143	143
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	3,400	3,400	3,400	124,695	124,695	143	131,351
当期末残高	578,269	563,269	563,269	832,380	832,380	60,175	1,913,742

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	1,800	1,784,191
当期変動額		
新株の発行		6,800
当期純利益		124,695
自己株式の取得		143
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	740	740
当期変動額合計	740	132,091
当期末残高	2,540	1,916,282

当事業年度(自 2017年 9月 1日 至 2018年 8月31日)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	578,269	563,269	563,269	832,380	832,380	60,175	1,913,742
当期変動額							
新株の発行	7,425	7,425	7,425				14,850
当期純利益				165,458	165,458		165,458
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	7,425	7,425	7,425	165,458	165,458		180,308
当期末残高	585,694	570,694	570,694	997,839	997,839	60,175	2,094,051

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	2,540	1,916,282
当期変動額		
新株の発行		14,850
当期純利益		165,458
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	22	22
当期変動額合計	22	180,330
当期末残高	2,562	2,096,613

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

仕掛品 個別法

貯蔵品 最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～15年

工具、器具及び備品 3～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づき定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号 平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、「有形固定資産」の「その他」に含めていた「リース資産(純額)」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「有形固定資産」の「その他(純額)」に表示していた21,306千円は「リース資産(純額)」21,306千円として組み替えております。

(追加情報)

(株式付与ESOP信託)

当社従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(従業員等に対して権利確定条件付き新株予約権を付与する取引に関する取扱いの適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表 注記事項(ストック・オプション等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

2. 採用している会計処理の概要

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表 注記事項(ストック・オプション等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2017年8月31日)	当事業年度 (2018年8月31日)
仕掛品	13,008千円	27,489千円
貯蔵品	145 "	127 "
計	13,154千円	27,616千円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2017年8月31日)	当事業年度 (2018年8月31日)
短期金銭債権	12,466千円	11,102千円
短期金銭債務	60,686 "	104,508 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
営業取引(収入分)	6,988千円	2,251千円
営業取引(支出分)	556,490 "	890,132 "
営業取引以外の取引(収入分)	4,052 "	2,089 "

2 販売費及び一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)	当事業年度 (自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)
役員報酬	96,249千円	112,404千円
給料及び手当	509,971 "	670,711 "
法定福利費	82,488 "	109,211 "
採用費	276,850 "	514,745 "
業務委託費	65,158 "	61,790 "
減価償却費	16,428 "	25,197 "
貸倒引当金繰入額	75 "	3,150 "
おおよその割合		
販売費	35.6%	46.4%
一般管理費	64.4%	53.6%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2017年8月31日)	当事業年度 (2018年8月31日)
子会社株式	1,204,085	1,199,185
関連会社株式	3,400	25,900
計	1,207,485	1,225,085

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2017年 8月31日)	当事業年度 (2018年 8月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	1,930千円	16,052千円
貸倒引当金	1,550 "	2,571 "
未払地代家賃	2,581 "	3,414 "
未払費用	11,900 "	20,976 "
未払金	3,063 "	4,033 "
その他	1,591 "	4,385 "
繰延税金資産(流動)小計	22,617千円	51,433千円
評価性引当額	68 "	- "
計	22,548千円	51,433千円
繰延税金資産(固定)		
未払地代家賃	- 千円	10,110千円
敷金及び保証金	6,374 "	8,829 "
投資有価証券評価損	7,577 "	131,163 "
その他	7,560 "	11,315 "
繰延税金資産(固定)小計	21,512千円	161,419千円
評価性引当額	13,952 "	139,993 "
計	7,560千円	21,425千円
繰延税金資産合計	30,109千円	72,858千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2017年 8月31日)	当事業年度 (2018年 8月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5%	1.5%
住民税均等割等	2.9%	2.2%
税額控除	2.3%	5.6%
評価性引当額の増減	1.1%	30.8%
その他	0.0%	0.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.1%	60.0%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	149,912	58,675	-	15,158	208,587	56,913
	工具、器具及び備品	169,612	30,751	-	32,743	200,363	138,256
	リース資産	24,673	73,392	-	18,544	98,066	21,911
	その他	-	899	-	-	899	-
	計	344,198	163,719	-	66,446	507,917	217,081
無形固定資産	ソフトウェア	207,706	73,489	-	42,998	281,195	124,721
	その他	10,792	72,149	71,267	994	11,674	3,052
	計	218,498	145,638	71,267	43,993	292,869	127,774

(注) 1. 「当期首残高」「当期末残高」については、取得価額にて記載しております。

2. 「当期増加額」のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	東京テストセンターの増床に伴う建物附属設備一式の購入	41,178千円
工具、器具及び備品	東京テストセンターの増床に伴う器具・備品一式の購入	16,978千円
	大阪テストセンターの開設に伴う器具・備品一式の購入	5,634千円
リース資産	人員増加に伴う器具一式の購入	73,392千円
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替	71,267千円
無形固定資産その他	CATシステムの開発	66,477千円

3. 「当期減少額」のうち主なものは、次のとおりであります。

無形固定資産その他	ソフトウェアへの振替	71,267千円
-----------	------------	----------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	5,247	8,397	5,247	8,397

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年9月1日から毎年8月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	毎年8月31日
剰余金の配当の基準日	毎年8月31日、毎年2月28日(閏年においては2月29日)
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 http://shiftinc.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

第12期(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)2017年11月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2017年11月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第13期第1四半期(自 2017年9月1日 至 2017年11月30日)2018年1月12日関東財務局長に提出。

第13期第2四半期(自 2017年12月1日 至 2018年2月28日)2018年4月13日関東財務局長に提出。

第13期第3四半期(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)2018年7月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

2017年11月28日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2018年11月21日

株式会社 S H I F T
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城 戸 和 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後 藤 英 俊

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 S H I F T の2017年9月1日から2018年8月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 S H I F T 及び連結子会社の2018年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社 S H I F T の2018年8月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社 S H I F T が2018年8月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2018年11月21日

株式会社SHIFT
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城 戸 和 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後 藤 英 俊

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社SHIFTの2017年9月1日から2018年8月31日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社SHIFTの2018年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。